婦人関係資料シリーズ
調査資料NO.28

主婦の自由時間に関する意識調査

付　階層別生活時間調査

労働省婦人少年局

はしがき

労働省婦人少年局ではこれまで種々の調査を行つて婦人の生活や意識の実態を把握することに努めてきましたが、今回は主婦の自由時間の問題をとりあげました。戦後、日本社会の近代化にともなつて家庭の生活様式にも可成りの変化がみられ、また一方出生率の低下によつて家族構成が変化しつつあることは、主婦の家事作業の軽減とともに育児期間の短縮を意味すると考えられます。このことから今後時間の余裕をもつ主婦が次第に多くなることが予想され、自由時間の問題は今後の婦人問題の重要なテーマとなるものと考えられるのですが、現状において、主婦はどの程度の自由時間をもち、それをどのように使つているでしようか、また主婦自身自由時間についてどのような考え方をもつているでしようか。この調査はこのような観点からこの問題をとり扱い、実態を明らかにしようとしたものです。この調査の結果はすでに今年4月婦人週間用資料として一部を発表しましたが、この報告書ではさらに詳細な結果をとりまとめました。

なおこの調査の付帯調査として、社会階層間における主婦の生活の型の相違を生活時間の面からみる意図のもとに、主婦の階層別生活時間調査を行いました。その結果も併せてここに収録します。

両調査の実施にあたつては、各地点の役場の方々、対象にあたられた方々、その他多くの方々の御世話になりました。又サンプリングについては統計数理研究所（国立）の西平重喜氏その他の方々の御協力をえました。これらの方々に対してここに厚く御礼を申上げます。

昭和34年9月

労働省婦人少年局

目　次

はしがき
調査の概要……1
調査の結果……2
Ⅰ 調査結果の要点……2
Ⅱ 主婦の実態……5
1. 続　柄……5
2. 年　令……5
3. 学　歴……6
4. 家族数……6
5. 同居家族……6
6. 子供の数……7
7. 職　業……7
8. 夫の職業……8
9. 世帯収入……8
Ⅲ 家事作業時間と収入生活時間……10
1. 家事作業時間……10
2. 収入生活時間……11
3. 団体等の仕事に使う時間……12
Ⅳ 自由時間について……14
1. 自由時間の長さ……14
2. 自由時間の内容……16
3. 自由時間をもっと作れるか……16
4. 自分の時間を作るように心がけているか……17

5. 自分の時間を作るについての障害……18
6. 気兼ねをするか……18
7. 自由時間の使い方についての意見……19
8. 公の施設がほしいか……20
9. くらしの忙がしさ……20
10. 主婦と夫の忙がしさ……22
11. 家事は楽になつたか……23
12. 家庭用品と燃料……12
13. 外出回数……13
14. 予定を立てているか……28
15. したいこと……29
16. 生活の張合い……30

統計表目次

第1表 続　柄……5
第2表 年　令……5
第3表 学　歴……6
第4表 家族数（本人を含む）……6
第5表 同居家族……7
第6表 子供の数……7
第7表 職　業……7
第8表 夫の職業……8
第9表 世帯収入……9
第10表 家事作業時間……10
第11表 家事手伝をやとつているか……11
第12表 職業のために使う時間……12
第13表 団体の仕事や公職の有無……13
第14表 団体の仕事や公職に使う時間……13
第15表 自由時間の長さ……15
第16表 自分の時間がほしいか……15
第17表 自由時間の内容……16
第18表 自分の時間が作れるか……17
第19表 自分の時間を作るように心がけているか……17
第20表 自分の時間をつくるのに困ること……18
第21表 気兼ねをするか……19
第22表 自由時間の使い方についての意見……19
第23表 公の施設がほしいか……20
第24表 くらしのいそがしさ……21
第25表 隣近所のいそがしさ……21
第26表 主婦と夫のいそがしさ……22
第27表 家事は楽になつたか……24
第28表 時間のよゆうができたか……24
第29表 時間のよゆうを何に使つたか……25
第30表 家庭用品……26
第31表 燃　料……27
第32表 外出回数……27
第33表 外出の用件……28
第34表 予定を立てているか……29
第35表 したいこと……29
第36表 張合い……30

調 査 の 概 要

1. 調 査 の 目 的

この調査は主婦の家庭生活における自由時間の問題について、その実態並びに主婦自身の考え方を明らかにする目的で行つた。

2. 調査の対象者

有配偶女子2,000名（全国）

但し回収数 1,863名

3. サンプリングの方法

この調査のサンプリングは3段のランダム・サンプリングで行つた。すなわち、第1段のサンプリングとしては、全国の市区町村にその人口に比例する確率を与え、等間隔サンプリングで50の市区町村をとり出した。（地点表P.31）

第2段のサンプリングとしては、第1段でとり出された市区町村から、やはり人口に比例する確率で、ランダムに2地域をえらび出した。このために、50の市区町村に地域別住民の登録数を問合わせた。

第3段サンプリングは、第2段でえらばれた地域内で住民票から、1地域20名ずつの「妻」を等間隔サンプリングでえらび出した。

4. 調査の方法　面 接 法

5. 調 査 期 日　昭和34年2月

6. 調査機関　有限責任中間法人

I 調査結果の要点

1. 主婦の実態

世帯主の妻が区部98%、市部91%、郡部85%で、長男の妻をはじめその他の世帯員の妻が郡部ほど多い。年令は30才台が約3分の1でもつとも多く、30才台、40才台で主婦の半分以上を占める。学歴は区部では旧制中・新制高が44%でもつとも多く、市部では高小・新制中が、郡部では小学校以下がもつとも多い。家族数の平均は区部4.6人、市部5.1人、郡部5.7人である。夫の母と同居するものの割合は区部9%、市部20%、郡部27%で郡部ほど多く、夫の父や兄弟姉妹などとの同居も郡部ほど多い。現在同居する子供数の平均は区部2.4人、市部2.6人、郡部2.8人である。収入源となる仕事をもつものは区部40%、市部55%、郡部80%で、郡部ではその70%が農林漁業に従事しており、区部と市部ではそれぞれ全体の15%が内職をもつている。

2. 家事作業時間

家事のために一日のうち何時間位使うかという問に対して、全体の34%が3～5時間、31%が5～7時間と答え、7時間以上のものと3時間未満のものが夫々15%あつた。無職のものは有職者にくらべて家事作業時間が長く、とくに区部の無職の主婦がもつとも長い。反対に有職者の中でも雇用者と非農林漁業の自営者は家事作業時間がもつとも短い。

3. 収入生活時間

職業をもつものに対して職業のために使うおよその時間数をきいた結果は、年間の忙しい時期には10時間から16時間、ひまな時期には6時間から9時間働くというものがもつとも多い。農林漁業従事者と非農林自営者の労働時間がとくに長い。

4. 社会的活動時間

団体等の仕事に関係しているものは全体の約15%であるが、その仕事のために週に1時間以上の時間を使うものは非常に少く、主婦全体の数からみれば3%ていどにすぎない。

5. 自由時間の長さ

主婦のもつ自由時間の長さは、1～2時間程度が全対象者の35%、3～4時間が23%、5時間以上が12%で、自由時間の全くないものが24%あり、1人当りの平均は2時間10分である。都市の主婦ほど自由時間を多くもち、また有職者より無職のものに自由時間が多く、とくに区部の無職者は自由時間の長いものがもつとも多い。有職者の中でも雇用者と非農林漁業従事者はもつとも自由時間が少ない。学歴は高いほど、家族数は少ないほど、自由時間が多い。年令では30才台と40才台に自由時間のないものが多い。

6. 自由時間の内容

自由時間に主婦は何をするかといえば一番多いのは"読書"、次いで"ラジオ""裁縫、つくろいもの"、このほか都市部では"テレビ""編物"、郡部では"子供の相手""雑談"などが多い。趣味やラジオ以外の娯楽に時間を使うものは少ないが、郡部ではとくに少ない。

7. 自由時間を作ることについて

自由時間を作るようにいつも心がけているものは全体の約半数で、若いものほど心がけているというものが多い。自分の時間をもつと作ろうとすれば作る余地があるというものは全体の半数より少し多い。また自分の時間を作るについて困ることは何かという問に対しては、"家業が忙がしすぎる"というものが30%でもつとも多く、"子供に手がかかる"というものがそれに次ぎ、"家事が忙がしすぎる"というものは17%でむしろ少ない。自分の時間をもつのに家族に気兼をするものは、区部10%、市部15%、郡部22%で、夫の父母に気兼ねをするものがもつとも多い。年令は若いほど気兼ねが多く、職業別では家族従業者の立場にある農林漁業従事者に、気兼ねをするものが目立つて多い（32%）。

8. 自由時間の使い途

主婦はひまな時間をどう使うのがよいと思うかときいたのに対して"内職など収入のための仕事"、"裁縫・あみもの""子供の相手"など主に家のためにする仕事をあげたものが54%、"読書""職業のための勉強"など自分の時間としての使い方を答えたものが49%で、ほかに団体活動など社会的な仕事をあげたものが少数あつた。

9. 主婦の忙がしさ

日々の暮しが"忙がしい"というものは、区部30%、市部40%、郡部50%で、郡部ほど多い。自由時間を3時間以上もつているもののうちには忙がしいというものは僅かしかないが、3時間以下の自由時間では半数以上が"忙がしい"といつている。

主婦と夫とどちらがひまが多いと思うかとの問に対して、区部では"主婦の方がひま"というものの方が多く、郡部では"夫の方がひま"というものの方が多い。また職業をもつ主婦は"夫の方がひま"というものが多く、無職者は"主婦の方がひま"が多い。とくに区部の無職者のうち"夫の方がひま"というものは13%にすぎない。

10. 家事は楽になつたか

過半数の64%のものが以前にくらべて、家事が楽になつたといつている。とくに区部の無職の主婦は74%が"楽になつた"といつているが、雇用者と内職者はむしろ"以前と変りない"というものの方が多い。

また以前にくらべて時間的な余裕ができてきたかどうかについては、"できてきた"というものは53%で、やはり過半数ではあるが、家事が楽になつたものよりは少ない。

11. 生活の張合い

生活に張合いがあるかという質問に対して大いに張合いがあるもの61%、少し張合のあるもの32%で、張合のないものは7%にすぎない。大いに張合いのあるものは40才台までのものに多く、高年令ほど張合のないものが多い。職業をもつものの場合は、自由時間のあるものはないものより張合いのあるものが多い。しかし無職のものについては、自由時間と張合いとは関係がみられない。

Ⅱ 主婦の実態

1. 続柄

調査の対象となつた主婦の世帯主との続柄をみると、世帯主の"妻"が殆んどで91%、"長男の妻"、"その他"がそれぞれ6%、3%となつている。地域別にみると、"妻"は区部98%、市部91%、郡部85%で郡部ほど少く、"長男の妻""その他"は反対に郡部ほど多くなつている。親子の同居世帯が郡部に多いことがうかがわれる。

第1表 続柄

	総数 実数	総数 %	妻	長男の妻	その他
全国	1,863	100%	91%	6%	3%
区部	298	100	98	2	—
市部	1,037	100	91	6	3
郡部	528	100	85	9	6

2. 年令

調査対象者の年令分布は第2表のとおりである。すなわち、30才台がもつとも多く全体の34%で、40才台がこれに次ぎ27%、20才台、50才台は20%以下、60才以上は5%で少ない。区部、市部、郡部別にみた分布の割合はほとんど差がないが、ただ60才以上が区部においては2%と他の地域より可成り少なくなつている。

これを昭和30年国勢調査による有配偶女子の年令分布と比較してみると、この調査では60才以上がやや少なく、30才台がやや多目であるほかは大体よく一致している。この調査の対象者は多少中年層にかたよ

第2表 年令

	総数 実数	総数 %	29才以下	30才台	40才台	50才台	60才以上
全国	1,863	100%	20%	34%	27%	14%	5%
区部	298	100	21	35	29	14	2
市部	1,037	100	20	33	26	15	6
郡部	528	100	19	34	28	14	5
(国勢調査による有配偶女子の年令分布)							
全国	34,302,806	100	20	29	24	16	11
市部	19,187,200	100	20	30	24	16	10
郡部	5,115,600	100	20	27	23	17	13

昭和30年国勢調査報告 %抽出集計結果より

づた傾向があるが大きなかたよりではない。

3. 学　　歴

対象者の学歴をみると、"高小・新制中"（卒業、中退を含む、以下同じ）がもつとも多く38%、次いで、"小学校以下"の29%、"旧制中・新制高校"の28%となり、"旧専・大学"は3%である。これを地域別にみると、都市部ほど学歴が高く、区部と郡部では可成りの相違がみられる。すなわち、区部では"旧制中・新制高校"がもつとも多く44%、"高小・新制中"がこれに次ぎ、"小学校以下"は16%、"旧専門学校・大学"が7%あるのに対し、郡部では、"小学校以下"と"高小・新制中"がいずれも40%余でもつとも多く、"旧制中・新制高校"以上は14%にすぎない。

第3表　学　　歴

	総数 実数	総数 %	小学校以下	高小・新中	旧中・新高	旧専・大学	その他
全国	1,863	100%	29%	38%	28%	3%	2%
区部	298	100	16	30	44	7	2
市部	1,037	100	26	39	30	3	2
郡部	528	100	42	41	13	1	3

4. 家族数（本人を含む）

全対象者について家族数別の分布をみると、5人家族のものがもつとも多く23%で、5人以上と5人以下が順に少なくなつている。市部は区部より、郡部は市部より、多少多人数家族にかたよつており、一世帯あたりの平均では、区部4.6人、市部5.1人、郡部5.7人となつている。

第4表　家族数（本人を含む）

	総数 実数	総数 %	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人以上	1世帯平均
全国	1,863	100%	6%	13%	18%	23%	16%	12%	7%	4%	1%	5.10人
区部	298	100	9	20	22	26	12	6	3	2	—	4.55
市部	1,037	100	7	13	19	23	15	11	7	4	1	5.12
郡部	528	100	3	9	14	20	20	16	8	5	3	5.68

5. 同居家族

対象者全体のうち、"夫の母"と同居するもの20%、"夫の父"との同居12%、"夫の兄弟姉妹"、"孫"、"嫁"と同居するものがそれぞれ8～9%あり、"本人の父""本人の母"との同居はいずれも3%以下で少ない。また子供のあるものは91%である。地域別にみると、ほとんどとの係累の家族についても、同居する主婦の割合は郡部ほど多く、"子供"と"本人の父母"の場合をのぞいては、地域別の差は可成り大きい。夫の母、いわゆる姑との同居の割合は区部9%、市部20%、郡部27%となつている。

第5表　同居家族

	総数 実数	総数 %	本人の父	本人の母	夫の父	夫の母	夫の兄弟姉妹	子供	孫	嫁	その他	不明
全国	1,863	100%	1%	3%	12%	20%	9%	91%	8%	9%	6%	6%
区部	298	100	1	4	6	9	5	90	1	3	7	8
市部	1,037	100	1	2	11	20	9	90	8	8	6	7
郡部	528	100	2	3	18	27	11	93	12	12	6	3

6. 子供の数

子供とともに暮しているもののうち、子供の数が1人と2人と3人のものが、ほぼ同数で夫々約25%、次いで4人14%、5人6%と順に少なくなつている。平均子供数は区部2.4人、市部2.6人、郡部2.8人で郡部ほどいくらか多い。

第6表　子供の数

	子供と同居するものの総数 実数	子供と同居するものの総数 %	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人以上	平均子供数
全国	1,687	100%	25%	26%	26%	14%	6%	2%	1%	0%	—%	2.61人
区部	267	100	28	27	28	11	5	1	0	—	—	2.42
市部	929	100	26	27	26	12	6	2	1	0	—	2.56
郡部	491	100	21	25	24	18	8	2	2	—	—	2.83

(註)　0は0.5%未満、—は1人もいないことを示す。

7. 職　　業

全対象者の60%が収入源となる何かの仕事をもつている。地域別にみた有職者の割合は、区部39%、市部55%、郡部79%で都市部ほど無職のものが多くなつている。有職者の職業別分布をみると、もつとも多いのは農林漁業従事者で、全対象者の25%、有職者全体の40%を占めており、郡部では対象者全体の約60%、有職者全体の70%に及んでいる。そして、これら農林漁業に従事する主婦のうち、自営は約2割、家族従事者として働くものは約8割である。区部と市部の有職者のうちでは内職に従事するものがもつとも多い（区部16%、市部15%）。雇われて働いているものは、全体の8%で、そのうちわけは労務職が多い。

第7表　職　　業

	総数 実数	総数 %	自営 農林漁業	自営 商工鉱業	自営 サービス業	自営 自由業	雇用 管理職	雇用 事務職	雇用 労務職	家族従業 農林漁業	家族従業 非農林漁業	内職	無職	不明
計	1,863	100%	6%	5%	2%	0%	—%	3%	5%	16%	5%	15%	40%	0%
区部	298	100	—	4	2	1	—	3	6	—	7	16	61	—
市部	1,037	100	4	7	3	0	—	3	6	10	8	15	43	1
郡部	528	100	13	3	1	0	—	1	4	43	7	7	21	0

8. 夫の職業

調査対象者の夫の職業は、"自営者"と"雇用者"がそれぞれ全体の50%と43%を占めている。"自営者"のうちでは、その9割が"農林漁業"と"商工鉱業"によつて占められ、その両者はほぼ同数である。"雇用者"については、労務職が事務職よりわずかに多く、この両者が"雇用者"の9割余を占め、管理職は1割に充たない。地域別にみると、区部では"雇用者"の割合がもつとも多く60%を占め、"自営者"(非農林)が34%である。市部では"自営者"46%(農林漁業14%、非農林漁業32%)、"雇用者"47%でほぼ同率、郡部では"自営者"70%、"雇用者"27%で"自営者"が断然多く、その中では"農林漁業"が約8割の54%を占めている。

夫と妻の職業の関係をみると、雇用者として働く妻は同じく雇用者の夫をもつものが76%でもつとも多く、そのうち労務職の夫が半数以上である。また内職をする主婦の夫も"雇用者"が多く70%を占め、無職の主婦の夫も、過半数が"雇用者"であるが、28%は非農林漁業自営者であり、8%は農林漁業自営者である。自営及び家族従業を含めて農林漁業に従事する主婦のうち、雇用者を夫にもつものが15%ある。

第8表　夫の職業

		総数 実数	総数 %	自営者 農林漁業	自営者 商工鉱業	自営者 サービス業	自営者 自由業	雇用者 管理職	雇用者 事務職	雇用者 労務職	家族従業者 農林漁業	家族従業者 非農林漁業	内職	無職	その他
計		1,863	100%	23%	22%	4%	2%	3%	19%	21%	1%	0%	0%	5%	0%
地域別	区部	298	100	—	25	4	5	3	33	23	—	0	0	6	—
	市部	1,037	100	14	25	5	2	3	21	23	1	—	0	6	0
	郡部	528	100	54	13	1	1	2	9	16	2	—	0	2	—
妻の職業	自営 農林漁業	111	100	68	1	—	—	3	16	11	—	—	—	2	—
	自営 非農林漁業	150	100	1	50	15	3	—	12	9	—	—	—	9	—
	雇用	147	100	3	12	—	—	1	30	45	—	—	—	9	1
	家族従業 農林漁業	333	100	82	2	—	0	1	2	7	6	—	—	1	—
	家族従業 非農林漁業	139	100	2	79	13	4	—	1	1	—	1	—	—	—
	内職	237	100	5	14	2	3	3	32	35	—	—	0	7	—
	無職	741	100	6	22	2	4	5	27	26	0	—	0	6	—
	不明	5	100	40	20	40	—	—	—	—	—	—	—	—	—

9. 世帯収入

対象者の家庭の年間収入をみると、年間収入"30～50万円"がもつとも多く26%、次ぎが"20～30万円"の24%である。すなわち全体の50%が20万円から50万円の収入を得ている。あとの50%のうちわけは"20万円以下"27%、"50万円以上"18%、"無回答"6%の割合になつている。地域別には、都会地ほど収入の多いものが多く、"50万円以上"の収入のあるものが区部29%、市部17%、郡部13%である。収入の少ないものは郡部に多く、20万円以下の収入の世帯は、郡部34%、市部27%、区部16%である。

主婦の職業別にみると、非農林漁業従事者(自営及び家族従業)の世帯収入は概して高く、半数以上が30万円以上、25%前後が50万円以上となつている。一方、雇用者、内職者、農林漁業の家族従業者の世帯は半数以上が30万円以下、3分の1が20万円以下で、ことに雇用者と内職者には高収入の世帯が少なく、50万円以上はいずれも8%である。主婦が無職の世帯については、地域によつて収入の差が大きく、区部はもつとも高く61%が30万円以上、31%が50万円以上の収入があるのに対し、郡部では61%が30万円以下、43%が20万円以下となつている。

第9表　世帯収入

		総数 実数	総数 %	0万円	～5万円	～10万円	～15万円	～20万円	～30万円	～50万円	～70万円	～100万円	～150万円	150～万円	無回答
計		1,863	100%	0%	2%	4%	8%	13%	24%	26%	10%	4%	3%	1%	6%
地域別	区部	298	100	1	—	1	5	9	21	31	16	7	6	0	4
	市部	1,037	100	0	2	4	7	14	26	27	9	3	2	1	4
	郡部	528	100	0	2	6	11	16	21	22	7	4	2	—	10
妻の職業	自営 農林漁業	111	100	—	2	5	3	11	26	26	3	3	1	—	22
	自営 非農林漁業	150	100	—	3	3	3	8	23	31	10	3	5	5	5
	雇用	147	100	—	4	5	12	12	28	29	5	1	1	1	1
	家族従業 農林漁業	333	100	—	2	7	11	12	26	20	14	3	1	—	5
	家族従業 非農林漁業	139	100	1	1	—	4	9	17	28	11	7	9	1	12
	内職	237	100	0	2	4	10	18	28	27	6	2	—	0	3
	無職 計	741	100	1	1	3	7	15	22	27	11	5	3	0	4
	無職 区部	182	100	2	—	1	3	10	20	30	18	9	4	—	4
	無職 市部	447	100	0	1	4	6	17	23	27	11	3	2	0	5
	無職 郡部	112	100	2	—	5	17	19	23	20	3	6	2	—	5
	不明	5	100	—	—	20	—	—	40	—	—	—	—	—	40

Ⅰ 家事作業時間と収入生活時間

主婦の自由時間についての調査結果を検討するに先立つて、まず、一般の主婦にとつて生活の基本的な部分となつている家事作業時間について、また、家事のほかに何らかの収入源となる仕事をもつている主婦については、その仕事に費やす時間について、二、三の質問を試みた結果をここでみておくことにしよう。また、団体等の社会的な仕事に関係している主婦の場合についても、そのような仕事にどれ程の時間が使われているかをみておくことにしよう。

1. 家事作業時間

問　あなたは炊事や洗濯などの家庭の仕事のために一日に何時間位使つていらつしやいますか？

回答の結果は第10表のとおりである。すなわち、全対象者のうちの34%が3時間から5時間未満、31%が5時間から7時間未満を家事のために使うと答え、3時間未満のものと7時間以上のものがそれぞれ15%となつている。区部で様5時間以上のものが以下のものよりやや多く、市部と郡部では5時間以下の

第 10 表　家事作業時間

		総数 実数	総数 %	時間 0	時間 ～2	時間 ～3	時間 ～5	時間 ～7	時間 ～9	時間 ～11	11時間以上	無回答
計		1,863	100%	3%	2%	13%	34%	31%	12%	3%	2%	1%
地域別	区部	298	100	3	3	7	29	41	9	2	4	2
	市部	1,037	100	3	2	14	34	28	14	4	1	1
	郡部	528	100	3	2	13	37	30	9	3	3	1
職業別	自営 農林漁業	111	100	3	2	19	38	28	8	2	1	—
	自営 非農林漁業	150	100	5	7	20	42	18	5	1	1	—
	雇用	147	100	3	5	23	43	22	2	—	—	1
	家従族業 農林漁業	333	100	2	2	16	43	27	8	2	1	1
	家従族業 非農林漁業	139	100	7	4	14	42	22	6	4	1	1
	内職	237	100	2	0	9	31	41	11	3	1	2
	無職 小計	741	100	2	1	7	26	35	18	5	4	1
	無職 区部	182	100	3	1	4	25	43	14	3	7	1
	無職 市部	447	100	2	1	8	28	32	21	6	3	1
	無職 郡部	112	100	2	1	12	20	38	16	6	7	0
	不明	5	100	—	—	40	—	20	40	—	—	—
年令別	～29才	366	100	1	1	11	35	34	12	3	2	1
	30才台	633	100	1	2	12	37	32	12	3	2	0
	40才台	503	100	3	2	13	34	30	12	4	2	2
	50才台	267	100	6	5	13	28	30	12	3	3	2
	60才以上	94	100	10	3	23	31	16	10	3	3	1

ものの方が多い。年令別ではほとんど差がみられない。ただ、60才以上では3時間未満の短いものや家事を全く行わないものが多い。

職業別にみると、職業の有無や職業の種類によつて、家事時間に可成りの相違がみられる。すなわち、無職のものはどの職業のものよりも家事時間の長いものが多く、5時間以上を家事に使うものが62%、7時間以上が27%であるのに対し、有職者の中でも雇用者と非農林漁業の自営者は、家事時間がもつとも短く、5時間以上は25%にすぎず、3時間以下の短いものがどの階層よりも多く、30%を占める。

なお主婦の家事時間に関連して、家事手伝を雇つているかどうかをきいたので、その結果をみておこう。家事手伝いを雇つているものは全体の8%で、住込はその約半数である。主婦が農林漁業、商工業その他を自営する家庭では20%が、また主婦が家族従業者として非農林漁業に従事する家庭でも同じく20%が家事手伝を雇つており、主婦が雇用者として働き、又内職をする家庭や、主婦が無職の家庭で家事手伝を雇つているものは5%内外である。

第 11 表　家事手伝をやとっているか

		総数 実数	総数 %	やとっていない	やとっている 小計	住込	パートタイム	時々	その他
計		1,863	100%	92%	8%	4%	1%	1%	2%
職業別	自営 農林漁業	111	100	80	20	3	—	※	※14
	自営 非農林漁業	150	100	80	20	14	3	2	1
	雇用	147	100	96	4	2	1	—	1
	家従族業 農林漁業	333	100	94	6	2	—	3	1
	家従族業 非農林漁業	139	100	81	19	13	2	1	4
	内職	237	100	100	0	0	—	—	—
	無職	741	100	95	5	3	1	1	1
	不明	5	100	100	—	—	—	—	—

※ 主なものは季節的な雇入である。

2. 収入生活時間

問　その（家事以外の）仕事のために一日平均何時間位使いますか？（一年のうち、とくに忙がしい時期とひまな時期があれば、両方について答えて下さい。）

すでにみたように、調査対象者である主婦の60%までが家事のほかに収入源となる何かの仕事をもつている。これらの職をもつ主婦に対して上の質問を行つたのであるが、回答の結果をみると、時期によつて一日の労働時間に相当のひらきのあるものが各職業を通じて多い。有職者全体を通してみると、繁忙期には10時間から16時間、ひまな時期には6時間から9時間働くというものがもつとも多く、平均労働時間は繁忙期10時間、ひまな時期4時間半となつている。また、とくに繁閑のない人々については、常時8～9時間働くという人がもつとも多く、平均7時間10分となつている。

職業別に繁忙期における労働時間をみると、農林漁業従事者（自営及び家族従業）と非農林漁業自営者は、平均10時間20分働いており、非農林漁業の家族従業者は8時間、雇用者は9時間20分、内職者は7時間50分の労働を行つている。各職業のひまな時期の平均労働時間は、繁忙期のそれよりおよそ4時間から6時間短い。

第 12 表　職業のために使う時間

				計	時間 0	時間 1～2	時間 3～4	時間 5～6	時間 7～8	時間 9～10	時間 11～15	時間 16～	不明	平均
計		繁閑のある人	忙しい時	570	—	3	20	36	97	170	222	13	9	10時間00分
			ひまな時		66	75	94	146	130	32	5	—	24	4. 30
		いつも同じ		310	—	22	42	47	100	50	38	4	7	7. 10
自営	農林漁業	繁閑のある人	忙しい時	100	—	—	2	7	14	21	52	1	3	10. 20
			ひまな時		11	14	19	30	20	1	—	5	—	4. 10
		いつも同じ		11	—	2	3	2	3	1	—	—	—	5. 10
	非農林漁業	繁閑のある人	忙しい時	68	—	1	2	6	13	11	27	7	1	10. 20
			ひまな時		7	8	8	14	9	12	4	—	6	5. 10
		いつも同じ		82	—	3	10	20	15	14	15	3	2	7. 50
雇用		繁閑のある人	忙しい時	53	—	—	2	1	17	20	13	—	—	9. 20
			ひまな時		11	1	4	6	22	5	1	—	3	5. 10
		いつも同じ		94	—	1	4	4	64	14	6	—	1	7. 50
家族従業	農林漁業	繁閑のある人	忙しい時	291	—	1	6	14	38	104	119	5	4	10. 20
			ひまな時		23	41	49	84	72	13	—	9	—	4. 40
		いつも同じ		42	—	6	10	2	7	9	7	—	1	6. 50
	非農林漁業	繁閑のある人	忙しい時	58	—	1	8	8	15	14	11	—	1	8. 00
			ひまな時		8	11	14	12	7	1	—	—	5	3. 20
		いつも同じ		81	—	10	15	19	11	12	10	1	3	6. 20
内職		繁閑のある人	忙しい時	123	—	4	6	30	39	25	16	2	1	7. 50
			ひまな時		29	21	34	20	14	—	—	—	5	3. 00
		いつも同じ		114	1	17	30	31	15	11	2	—	7	4. 50

（注）数字はすべて実数である。

3. 団体等の仕事に使う時間

問　あなたはＰＴＡや婦人会など団体やグループの仕事とか、民生委員や家事調停委員のような役所関係の仕事などを何か受持つていますか？　その仕事のために一日のうち、あるいは週に、何時間位使つていますか？

回答の結果では、区、市、郡部を通じて、団体やグループの仕事をもつているものは15%前後で、公職をもつものは１%以下の少数であるが、このような仕事にどの位の時間が使われているかをみると、多少

とも毎日の１～５時間をとられるというものは、仕事をもつているもの全体の５%足らずで、週に６時間以上使うものが3%、5時間以下が16%となつており、残りの75%は"週に何時間というほども使わない"と答えている。要するに少なくとも週に１時間以上の時間を団体関係などの社会的な仕事に使うものは、主婦全体の数からみれば３%程度ということになる。

第 13 表　団体の仕事や公職の有無

		総数 実数	総数 %	もつていない	もつている 小計	もつている 団体の仕事	もつている 公職
計		1,863	100%	85%	15%	15%	0%
地域別	区部	298	100	83	17	17	0
	市部	1,037	100	85	15	15	1
	郡部	528	100	86	14	14	0

第 14 表　団体の仕事や公職に使う時間

	団体公職関係者総数	一日に 時間～1	時間 1～2	時間 3～4	時間 5～6	時間 7～	一週に 時間～1	時間 1～2	時間 3～5	時間 6～9	時間 10～	週に何時間という程使わない
計	100%(279)	1%	1%	1%	1%	—	1%	7%	8%	1%	2%	75%
団体	100 (272)	1	2	2	1	—	1	7	9	2	2	75
公職	100 (7)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100

Ⅲ 自由時間について

1. 自由時間の長さ

問 あなたは仕事をしたり、ねたり、食べたりする以外に、くつろいだり、自由に好きなことのできる自分の時間、つまり余暇とか、ひまといつた時間がありますか？ 一日に何時間位ありますか？

回答の結果によると、全対象者の76%が多かれ少なかれ自由時間をもつており、自由時間の全くないものは24%である。自由時間のあるもののうちでは、1～2時間程度の自由時間をもつものがもつとも多く、全対象者の35%、次いで3～4時間が23%、5時間以上の自由時間をもつものは12%である。自由時間のないものも含めて1人当りの平均時間数は、約2時間10分となる。

区部、市部、郡部の別でみると、自由時間の全くないものは郡部ほど多く（郡部28%、市部24%、区部16%）、また自由時間の長いものは都市部ほど多い。すなわち区部では3時間以上の自由時間をもつものが全体の43%を占めており、3時間未満のものより多いのに対して、郡部では3時間以上のものは26%で、3時間未満が43%となつている。一人当りの平均自由時間数では、区部2時間35分、市部2時間20分、郡部1時間50分で、区部と郡部とでは1時間に近いひらきがみられる。

職業別にみると、有職階層は無職階層にくらべて自由時間のないものが多く、なかでも非農林漁業従事者（自営及び家族従業）と雇用者は、35%～40%までが自由時間を全くもたず、また時間の短いものが多い。

一方、無職の主婦は自由時間のないものは13%にすぎず、過半数が3時間以上の自由時間をもつており、5～6時間以上というものも24%に及んでいる。ことに区部の無職者は92%までが自由時間をもつており、時間数ももつとも長い。

年令別では、30才と40才台に自由時間の全くないものが多く、また学歴別では、学歴が高いほど自由時間をもたないものが減り（小学28%、旧専・大学11%）、同時に時間の長いものが多くなる傾向がみられる。更に家族数別にみると、家族の多いものほど自由時間のないものが多く（2人14%、5～6人28%、9人以上30%）、自由時間の長いものは少なくなつている。世帯の収入別ではとくに差はみられない。ただ年収50万円以上の階層ではそれ以下の階層にくらべて、自由時間のないものがはるかに少ない。

なお全対象者の24%にあたる自分の時間が"全くない"と答えたものに対して、自分の時間がほしいと思うかをたずねたところ、73%が"ほしい"と答え、"ほしいと思わない"といつたものは24%であつた。年令は若いほど"ほしい"というものが多く、高年令層ほど"ほしいと思わない"ものが多い（20才台17%、40才代25%、60才以上40%）。地域別では都市部ほど"ほしい"ものがかなく、"ほしくない"ものが

第15表 自由時間の長さ

		総数 実数	総数 %	ない	ある 小計	ある 1時間～1	ある 1時間～2	ある 3時間～4	ある 5時間～6	ある 7時間～8	ある 9時間～10	ある 11時間～	ある 不明	平均
計		1,863	100%	24%	76%	4%	35%	23%	8%	2%	1%	1%	1%	2時間10分
地域別	区部	298	100	16	84	7	32	29	10	3	1	1	—	2.35
	市部	1,037	100	24	76	4	33	24	9	2	1	1	2	2.20
	郡部	528	100	28	72	3	42	17	7	1	1	—	2	1.50
職業別	自営 農林漁業	111	100	16	84	2	30	23	4	1	1	—	—	2.00
	自営 非農林漁業	150	100	39	61	13	21	21	4	—	—	—	2	1.25
	雇用	147	100	35	65	10	40	12	3	—	1	—	1	1.20
	家族従業 農林漁業	333	100	30	70	3	42	17	5	1	0	0	2	1.55
	家族従業 非農林漁業	139	100	38	63	1	34	24	—	1	1	1	1	1.35
	内職	237	100	27	73	2	41	19	6	1	1	1	3	1.55
	無職 小計	741	100	13	87	3	30	29	15	5	2	2	1	3.05
	無職 区部	182	100	8	92	8	28	35	15	4	2	1	—	3.10
	無職 市部	447	100	14	86	2	31	29	15	5	2	2	0	3.05
	無職 郡部	112	100	18	82	2	31	23	14	5	4	—	4	2.50
	不明	5	100	40	60	20	20	—	—	—	—	—	20	0.30
学歴別	小学校以下	542	100	28	72	3	34	21	7	3	2	2	2	2.10
	高小・新中	710	100	28	72	5	37	19	7	1	1	1	1	1.55
	旧中・新高	512	100	16	84	5	34	28	12	3	0	0	1	2.30
	旧専・大学	54	100	11	89	4	30	33	9	6	2	—	6	2.50
	その他	45	100	9	91	4	49	24	7	—	4	—	2	2.25
家族数別	2人	117	100	14	86	4	31	27	15	5	2	3	—	3.05
	3～4人	573	100	19	81	5	33	27	11	3	1	1	1	2.30
	5～6人	719	100	28	73	4	35	21	7	2	1	1	2	2.00
	7～8人	357	100	26	74	4	37	21	5	1	2	1	2	2.05
	9人以上	97	100	30	70	2	45	16	3	—	2	—	2	1.35
収入別	0～20万円	507	100	29	71	4	35	16	11	2	1	1	1	2.05
	20～30〃	449	100	24	76	4	34	29	7	1	1	1	1	1.55
	30～50〃	484	100	24	76	5	36	22	8	3	1	0	1	2.10
	50万円以上	314	100	16	84	5	36	28	8	3	1	1	2	2.20
	不明	109	100	24	76	2	36	20	6	1	3	2	7	2.05

第16表 自分の時間がほしいか

		自由時間のないものの総数 実数	自由時間のないものの総数 %	ほしい	ほしくない	無回答
計		446	100%	73%	24%	3%
地域別	区部	48	100	63	35	*
	市部	252	100	73	26	2
	郡部	146	100	78	18	5
年令別	～29才	72	100	82	17	*
	30才台	162	100	77	20	3
	40才台	138	100	72	25	2
	50才台	54	100	57	37	5
	60才～	20	100	55	40	5

多くなる傾向がみられる。

なお自分の時間が"ほしいと思わない"ものに対して、その理由をきいたのであるが、"仕事が面白いから""生活が大事だから"と答えたものが極少数あつただけで、はつきりと理由を述べなかつたものがほとんどであつた。

2、自由時間の内容

問　あなたは自分の時間に何をしますか？

回答の結果では、自分の時間には"読書"をするというものが全体の半数近くあつてもつとも多く、次いで多いのは"ラジオ"と"裁縫やつくろいもの"で、それぞれ27％と25％、そのほかに"編物""子供の相手""雑談""休息""新聞よみ"がそれぞれ10％程度となつている。ラジオ以外の娯楽や趣味方面のことに自分の時間を使うものはそれぞれ5％程度で少ない。

地域別には大差はないが、区部では"テレビ"と答えたものが16％あつて、"読書""ラジオ""裁縫""あみもの"に次いで多く、郡部では"読書"がやはり一位ではあるが区部や市部よりは少なくそのかわりに"新聞"が多くなつており、又"裁縫やつくろいもの""子供の相手"など家事的な仕事をあげたものが他の地域より多い。

年令別にみると、若い年代ほど"読書"と"あみもの"がふえ、"雑談"や"休息"は高年令ほど多い。職業別では格別の差はみられない。

第 17 表　自由時間の内容

	自由時間あるものの総数 実数	自由時間あるものの総数 %	読書	ラジオ	裁縫、つくろいもの	子供の相手	新聞	編物	休息	雑談	テレビ	趣味	娯楽	その他
計	1,417	100%	49%	27%	25%	13%	12%	12%	12%	10%	9%	6%	4%	16%
区部	250	100	48	22	20	8	10	17	10	4	16	9	4	27
市部	785	100	56	29	23	13	4	11	13	10	9	6	5	17
郡部	382	100	35	26	34	15	29	11	11	14	3	3	2	8

（注）二つ以上の内容を答えたものがあるため各項目の計は100％をこえる。

3、自分の時間をもつと作れるか

問　あなたは自分の時間をもつと作ろうとすれば作れますか？

自分の時間を今以上に"作れる"というものは全体の55％で"作れない"ものよりやや多い。しかし現在自由時間を長時間もつているものほど"作れる"というものが多くなつている。すなわち現在自由時間の全くないもののうちでは"作れる"というものは33％にすぎず、大部分のものが"作れない"といつているのに対し、3時間未満の自由時間をもつているものは40～50％が、3時間以上のものは70％以上が

"作れる"と答えている。

第 18 表　自分の時間が作れるか

		総数 実数	総数 %	作れる	作れない
計		1,863	100%	55%	45%
自由時間数別	なし	444	100	33	67
	1時間未満	79	100	46	54
	1時間以上	655	100	51	49
	3時間〃	424	100	73	27
	5時間〃	198	100	76	24
	9時間〃	38	100	76	24
	不明	25	100	84	16

4、自分の時間を作るように心がけているか

問　あなたは自分の時間を作るように、いつも心がけていますか？　どうやつて自分の時間を作りますか？

全体の約半数が自分の時間を作るように"いつも心がけている"と答えている。職業別にはほとんど差がみられないが、年令別にみると、年令の若いものほど"心がけている"というものが多くなつている（20才台55％、40才代48％、60才以上21％）。

"心がけている"と答えたものに対してどうやつて自分の時間を作ろうとしているかと質問したのに対しては、65％のものが"仕事の手順を考える"と答え、その他の方法を述べたものは極少数すつであつた。

第 19 表　自分の時間を作るように心がけているか

		総数 実数	総数 %	心がけている	心がけていない
計		1,863	100%	48%	52%
地域別	区部	298	100	46	54
	市部	1,037	100	48	52
	郡部	528	100	49	52
年令別	～29才	366	100	55	45
	30才台	633	100	52	48
	40才台	503	100	48	52
	50才台	267	100	40	60
	60才～	94	100	21	79

5. 自分の時間を作るについての障害

問　あなたが自分の時間を作ろうとするとき、一番困ることは何ですか？

上の質問に答えて"家業が忙がしすぎる"といつたものが全体の29%でもつとも多い。（これは対象者中家業をもつもの――自営者及び家族従業者――総数の73%にあたる。）次に"子供に手がかかる"が25%、"家事が忙がしすぎる"は17%で比較的少ない。また"困ることは何もない"ものが20%ある。

年令別でみると、20才台では"家業"といつたものが一番多く53%、30才台では"家業"と"子供"、40才台と50才台では"子供"と"家事"をあげたものがもつとも多い。また"困ることは何もない"といつたものは高年令ほど多い。なお、"家族に気兼ねをする"というものが20才台に12%あり、若い層ほど多くなつているが、"気兼ね"については次の質問でなおくわしくみよう。

第 20 表　自分の時間をつくるのに困ること

		総数 実数	総数 %	家業が忙しすぎる	子供に手がかかる	家事が忙しすぎる	家族に気がねする	その他	困ることなし	無回答
計		1,863	100%	29%	25%	17%	6%	4%	19%	13%
地域別	区部	298	100	29	16	21	3	7	17	16
	市部	1,037	100	29	23	17	6	5	19	12
	郡部	528	100	28	32	15	8	1	18	12
年令別	～29才	366	100	53	14	10	12	2	13	9
	30才台	633	100	33	28	14	7	5	14	15
	40才台	503	100	17	30	23	4	7	19	13
	50才台	267	100	12	25	21	3	2	29	12
	60才～	94	100	19	16	16	2	3	36	15

6. 気兼ねをするか

問　あなたはとくべつ用のない時に、自由にくつろいだり、好きなことをすることについて、家の人に気兼ねをしますか？　誰に気兼ねをしますか？

自分の時間をもつことについて家の誰かに"気兼ねをする"というものは全体の16%で、大部分が"誰にも気兼ねしない"と答えている。気兼ねをする相手は、夫の父母が9%でもつとも多く、"夫"が4%、その他の家族が3%となつている。

地域別にみると、気兼ねをするものは郡部に多く都市部ほど少なくなつており（郡部22%、区部10%）、職業別では、家族従業者の立場にある農林漁業従事者に"気兼ねをする"ものが目立つて多く（32%）、とくに夫の父母への気兼ねが多い。また年令別では若いものほど気兼ねするものが多い（20才台25%、30才台17%、50才台11%）。

第 21 表　気兼ねをするか

			総数 実数	総数 %	気兼ねしない	気兼ねする 計	夫に	夫の父母に	その他の家族に	その他	不明
計			1,863	100%	84%	16%	4%	9%	3%	1%	1%
地域別	区部		298	100	90	10	3	4	2	0	1
	市部		1,037	100	85	15	4	8	3	1	0
	郡部		528	100	78	22	5	15	8	1	1
職業別	自営	農林漁業	111	100	79	21	5	15	5	2	2
		非農林漁業	150	100	87	13	3	7	1	2	—
	雇用		147	100	88	12	1	8	1	1	1
	家族従業	農林漁業	333	100	69	32	6	23	6	3	1
		非農林漁業	139	100	83	17	4	8	3	1	2
	内職		237	100	89	11	4	5	3	1	—
	無職	計	741	100	90	10	3	5	3	1	0
		区部	182	100	92	8	3	3	2	1	—
		市部	447	100	90	10	3	5	3	1	0
		郡部	112	100	87	13	3	8	4	—	—
	不明		5	100	—	100	20	60	—	—	20
年令別	～29才		366	100	75	25	3	17	6	2	0
	30才台		633	100	83	17	4	11	3	2	1
	40才台		503	100	88	13	5	7	1	1	1
	50才台		267	100	89	11	5	4	3	0	—
	60才～		94	100	92	9	2	1	5	—	1

7. 自由時間の使い方についての意見

問　主婦にひまがあれば、その時間はどう使うのがよいと思いますか？

ひまな時間はどう使うのがよいかについては、"裁縫やあみもの""子供の相手""収入のある仕事"などのような家のための仕事をあげたものが過半数の54%、"読書、新聞よみ""教養のための勉強"

第 22 表　自由時間の使い方についての意見

総数	100% (1,863)
読書、新聞よみ	15
教養、勉強	14
休養	5
娯楽	4
編物	6
ラジオ	3
その他自分のこと	2
小計	49
裁縫、あみもの	12
子供の相手	13
収入のある仕事	14
家事	5
家政技術研究	6
その他家のこと	4
小計	54
グループ活動、集会その他社会的活動	6

（注）二つ以上の内容をあげたものがあるため、各項目の計＋100%をこえる。

"娯楽"などの自分の時間としての使い方を答えたものが49%で、そのほかに"グループ活動"といったような社会的分野での使い方を答えたものが6%あつた。

8. 公の施設がほしいか

問 主婦がひまな時間を有意義に使うことができるように、何か公の施設がほしいと思いますか？どんな施設ですか？

余暇の利用のために何か公の施設が"ほしいと思う"ものは全体の36%、"思わない"ものは38%、"わからない"というもの27%となつている。地域別では差はないが、年令別では、年令の若いものほど"ほしいと思う"ものが多くなつている。(20才台47%、40才台36%、60才以上16%)

ではどんな施設がほしいかといえば、どの地域でも施設がほしいといつたものの約半数が"婦人会館"のような婦人のための総合的施設を要望しており、そのほかとくに"和洋裁や料理などの講習所"、"図書館"、"内職センター"などを希望するものがそれぞれ10%内外みられる。しかし具体的に回答を出さなかつたものが約3分の1あつた。

第23表 公の施設がほしいか

		総数 実数	総数 %	ほしいと思う	ほしいと思わない	わからない
計		1,863	100%	36%	38%	27%
地域別	区部	298	100	37	35	29
	市部	1,037	100	35	38	28
	郡部	528	100	39	38	23
年令別	～29才	366	100	47	29	24
	30才台	633	100	38	37	25
	40才台	503	100	36	40	25
	50才台	267	100	24	47	29
	60才～	94	100	16	36	48

9. くらしの忙がしさ

問 a）いそがしさの点で、あなたは自分のくらし方をどう思いますか？

b）いそがしさの点で、あなたは隣近所の奥さんたちのくらし方をどう思いますか？

自分のくらし方については"いそがしい"と答えたものは全体の42%で、"あまり忙がしくない"又は"ひま"と答えたものの方が全体としては多かつた。しかし地域別にみると、"忙がしい"ものは区部33%、市部41%、郡部50%と、郡部ほど多くなつている。年令では、30才台、40才台に"忙がしい"ものが多い(20才台33%、30才台45%、40才台49%、50才代38%、60才以上31%)。自由時間との関係では、自由時

第24表 くらしのいそがしさ

		総数 実数	総数 %	いそがしい	あまりいそがしくない	ひしろひま	ひますぎる	その他 無回答
計		1,863	100%	42%	45%	8%	4%	1%
地域別	区部	298	100	33	56	8	2	—
	市部	1,037	100	41	45	9	4	2
	郡部	528	100	50	39	6	4	1
職業別	自営 農林漁業	111	100	50	43	3	3	2
	自営 非農林漁業	150	100	55	36	7	—	1
	雇用	149	100	[illegible]	28	1	1	—
	家族業 農林漁業	333	100	60	35	2	1	2
	家族業 非農林漁業	138	100	50	44	3	—	3
	内職	238	100	36	50	10	2	2
	無職 計	745	100	24	55	14	7	0
	無職 区部	183	100	20	65	12	3	—
	無職 市部	450	100	26	51	13	8	1
	無職 郡部	112	100	24	52	15	9	—
	不明	5	100	80	20	—	—	—
自由時間数別	なし	444	100	70	26	2	1	2
	1時間未満	79	100	53	44	1	—	1
	1〃以上	655	100	48	46	4	1	1
	3〃〃	424	100	20	64	13	2	0
	5〃〃	198	100	10	49	24	17	0
	9〃〃	38	100	13	24	29	34	—
	不明	25	100	28	32	24	12	4

第25表 隣近所のいそがしさ

		総数 実数	総数 %	忙がしい	あまり忙がしくない	ひしろひま	ひますぎる	その他	無回答
計		1,863	100%	35%	45%	11%	2%	3%	0%
地域別	区部	298	100	20	51	14	5	1	11
	市部	1,037	100	31	48	13	2	5	2
	郡部	528	100	50	38	7	1	2	2
職業別	自営 農林漁業	111	100	47	47	3	2	2	—
	自営 非農林漁業	150	100	43	39	14	1	3	—
	雇用	147	100	26	49	16	2	6	0
	家族業 農林漁業	333	100	59	35	3	1	1	1
	家族業 非農林漁業	139	100	29	43	19	3	4	2
	内職	237	100	25	50	14	5	—	7
	無職 計	741	100	26	49	13	2	5	6
	無職 区部	182	100	17	55	12	3	—	15
	無職 市部	447	100	27	50	14	2	7	—
	無職 郡部	112	100	40	38	12	1		8
	不明	5	100	20	40	—	20	—	20

間を長くもつものほど当然"忙がしい"ものが少ないが、詳しくみると自由時間3時間未満では50%以上が"忙がしい"といつているのに対して、3時間以上になると"忙がしい"ものの割合は急に低下して20%以下になつていることが注目される。

隣近所の主婦のくらし方については、"忙がしい"とみるものは全体の約3分の1で、"あまり忙がしくない"または"むしろひま"とみるものの方が多い。地域別にみると、やはり区、市、郡部の順に"忙がしい"がふえている（区部20%、郡部50%）。

質問a）とb）の結果を比較してみると、郡部では自分自身と隣近所のいそがしさが大体一致しているが、都市部ほど"忙がしい"が"隣近所"より自分自身の方に多くなつている。つまり都会になるほど、自分自身のくらしが周囲のものより忙がしいと思うものが多いことがわかる。この傾向は、職業別にみるとき、雇用者と内職者にもつとも顕著にみられることは当然であろう。また隣近所の忙がしさというとき、無回答が郡部2%に対し、区部では11%となつていることも、地域の性格から肯ける。

10. 主婦と夫の忙がしさ

問　一般に主婦のくらしと、夫のくらしをくらべてみて、どちらがひまが多いと思いますか？

対象者全体についてみると、"主婦の方がひま"、"夫の方がひま"、"どちらとも云えない"という三通りの見方がほぼ3分の1ずつとなつている。しかし地域別や職業別にみると可成りの相違がみられる。すなわち、区部では"主婦の方がひま"というものが"夫の方がひま"というものより多いのに対して、

第26表　主婦と夫の忙がしさ

			総数 実数	総数 %	主婦の方がひま	夫の方がひま	どちらともいえない	無回答
計			1,853	100%	33%	35%	32%	0%
地域別	区部		298	100	45	23	32	—
	市部		1,037	100	32	34	34	0
	郡部		528	100	28	43	29	1
職業別	自営	農林漁業	114	100	21	40	40	—
		非農林漁業	150	100	19	43	38	—
	雇用		147	100	22	52	26	1
	家族従業	農林漁業	363	100	23	45	32	1
		非農林漁業	139	100	27	36	37	0
	内職		237	100	33	36	31	0
	無職	計	741	100	45	24	31	—
		区部	182	100	57	13	30	—
		市部	447	100	42	24	34	—
		郡部	112	100	38	41	21	—
	職業不明		5	100	20	60	20	—

郡部では反対に"夫の方がひま"というものの方が多い。また、職業をもつ主婦はどの職業のものも"主婦の方がひま"というものより"夫の方がひま"というものが多いのに対して、無職のものは"主婦の方がひま"というものの方が多くなつている。とくに区部と市部にその傾向がつよく、区部の無職者のうち、"夫の方がひま"とみるものは13%にすぎない。年令や学歴によつてはとくに差はみられない。

11. 家事は楽になつたか

問　a）最近は家事の合理化ということがよくいわれますが、数年前にくらべて、お宅では、家事の仕事が楽になつたと思いますか？

b）時間の点ではどうですか、以前にくらべて時間のよゆうができてきたと思いますか？　その時間を何に使つていますか？

以前にくらべて家事が"楽になつた"というものが全体の64%で過半数、"以前と変らない"ものは36%である。

主婦の職業別にみると、商工業などの非農林漁業に従事するものは自営者、家族従業者ともに"楽になつた"というものが比較的多く70%をしめ、また農林漁業自営者も約70%が"楽になつた"といつている。無職者については市部と郡部では"楽になつた"ものはとくに多くないが、区部では74%が"楽になつた"といつており、どの階層よりも多い。これに対して雇用者は"楽になつた"ものがもつとも少なく、"以前と変りない"というものとほぼ半々になつている。また内職者も"以前と変りない"ものが可成り多い。（40%）

世帯の収入別にみると、収入の高い階層ほど"楽になつた"というものが顕著にふえている。すなわち、年収20万円以下では"楽になつた"ものは50%で最低、20万～50万円では60～70%、50万円以上の階層では約80%が"楽になつた"といつている。

一方、以前にくらべて時間のよゆうができてきたかという質問に対しては、"よゆうができてきた"というものが53%で、"以前と変りない"というものよりやや多いが、前問で家事が"楽になつた"というもの（64%）より少なくなつている。職業別にみると、雇用者は"楽になつた"ものも少なかつたが、"時間のよゆうができてきた"というものも一番少なく"以前と変りない"というものが60%を占めている。反対に区部の無職者は"よゆうができてきた"というものが60%で、やはり一番多い。

現在もつている自由時間との関係でみると、自由時間の皆無のものや1時間未満しかもつていないものは"よゆうができてきた"ものより"以前と変りない"ものの方がむしろ多いが、自由時間数1時間以上になると"よゆうができてきた"というものがだんだんふえて、3時間～8時間の自由時間をもつもののうちでは約3分の2が"よゆうができてきた"といつている。しかし自由時間数9時間以上になると"以前と変りない"というものの方がかえつて多くなつている。

上の質問で"よゆうができてきた"と答えた人に、その時間を何に使つたかをきいた結果は、教養、娯

第 27 表　家事は楽になったか

			総数 実数	総数 %	楽になった	以前と変らない	その他（苦しくなった）	無回答
計			1,863	100%	64%	36%	0%	1%
地域別	区部		298	100	67	32	1	—
	市部		1,037	100	61	38	0	1
	郡部		528	100	66	33	1	1
職業別	自営	農林漁業	111	100	69	31	—	—
		非農林漁業	150	100	71	29	—	—
	雇用		147	100	50	48	1	1
	家族従業	農林漁業	333	100	63	35	0	1
		非農林漁業	139	100	70	30	1	—
	内職		237	100	58	40	1	1
	無職	計	741	100	65	35	0	0
		区部	182	100	74	26	1	—
		市部	447	100	61	39	0	0
		郡部	112	100	63	37	—	—
	不明		5	100	40	60	—	—
収入別	0 ～ 20万円		507	100	50	49	1	1
	20 ～ 30 〃		449	100	60	39	0	0
	30 ～ 50 〃		484	100	72	28	0	—
	50 万円以上		314	100	79	20	0	0
	不明		109	100	60	37	—	4

第 28 表　時間のよゆうができたか

			総数 実数	総数 %	よゆうができた	以前と変らない	その他	無回答
計			1,863	100%	53%	46%	1%	1%
地域別	区部		298	100	57	40	3	0
	市部		1,037	100	52	46	0	1
	郡部		528	100	51	48	0	1
職業別	自営	農林漁業	111	100	55	44	—	1
		非農林漁業	150	100	55	44	1	—
	雇用		147	100	41	59	—	1
	家族従業	農林漁業	333	100	49	50	0	2
		非農林漁業	139	100	55	44	1	1
	内職		237	100	55	42	1	2
	無職	計	741	100	55	44	1	1
		区部	182	100	60	37	3	—
		市部	447	100	54	44	0	1
		郡部	112	100	47	52	—	1
	不明		5	100	—	80	—	20
自由時間数別	なし		444	100	32	66	1	1
	1～3時間未満		79	100	46	54	—	—
	3～5 〃		655	100	55	43	1	1
	5～9 〃		424	100	67	32	1	1
	9 〃 以上		198	100	63	36	—	1
	不明		38	100	47	53	—	—
			25	100	60	40	—	—

楽、趣味、休息など主に自分の時間として使つたものが約40%、育児など主として家庭のことに使つたものが30%、家業や内職に使つたものや働きに出たものが20%となつている。団体の仕事など社会的活動にあてたというものは1%にすぎない。

第 29 表　時間のよゆうを何に使ったか

よゆう時間のできたものの総数	100% (978)
家業、内職、動労	20
編物、あみもの、その他の家事	18
子供の相手	8
その他家のこと	3
小計	29
読書（新聞を含む）	12
教養	2
休養	13
ラジオ、テレビ	4
趣味	4
娯楽	6
その他自分のこと	3
小計	30
団体のしごと、集会、その他社会的活動	1
その他	5
わからない	12

12. 家庭用品と燃料

問　お宅では次のものを使つていますか？

1. ミシン　2. ラジオ　3. 電気洗濯機　4. 電気釜

5. 電気暖房器具（ストーブ、コタツなど）　6. テレビ　7. 冷蔵庫

8. 電気掃除機

主婦の家事作業を軽減し、自由時間を生み出すために、電気器具などの家庭用品の果たす役割は大きいであろう。またラジオやテレビが主婦の自由時間と関係の深いものであることは前記の調査結果からも明らかである。そこでこの種の家庭用品のうちとりあえず上記のものをとりあげてその使用状況をきいたのであるが、その結果は第30表のとおりである。まず全国的にみると、ラジオは93%の家庭にあり、ミシンは62%、電気暖房器具は28%、電気洗濯機は24%の家庭で使用されている。電気釜、テレビ、冷蔵庫を使用する家庭はいずれも20%に充たない。

地域別にみると、どの器具についても都市部ほど使用率が高く、ラジオ、ミシンを除くその他の品目では、その格差が区部は郡部の2倍から6～7倍になつている。たとえば、電気洗濯機は区部では44%の世帯が使つているのに対し郡部では11%にすぎず、テレビは区部では40%、郡部では6%となつている。

主婦の職業別にみると、非農林漁業の自営者及び家族従業者はどの品目についても使用率が極めて高い。すなわちこれらの階層では電気洗濯機や電気暖房器具は4割内外の家庭にあり、テレビや冷蔵庫は約3割の家庭が使つている。これにくらべて雇用者や内職者はほとんどの品目で使用率がずつと下るが、電気釜は雇用者の約8割が使用しており、有職、無職を通じてどの階層よりも使用率が高い。どの器具にもっとも縁遠いのは農林漁業従事者で、とくに主婦が家族従業者として農業に従事する家庭ではもっぱらの器

具を使用するもの程目しろざれて、ミシンとラジオを除いては、電気暖房器具が8%、その他の品目は5%以下の使用率を示つている。無職のものについては、区部、市部、郡部の別で大きな差がみられ、区部の無職者はどの品目についても使用率は極めて高く、中でも電気洗濯機、暖房器具、テレビは50%内外が使つている。

収入階層別にみるならば、当然予想される通り、収入の高い階層ほどこれらの器具は多く使用されており、しかも階層間の格差は相当に大きい。しかし年収50万円以上の階層（全世帯の17%にあたる）においてさえ、これらの器具を使用する世帯の割合は、ラジオとミシンを除いて30～50%の範囲を出ない。

家庭用器具とともに主婦の生活に関係の深いのは燃料であろう。炊事用燃料として主に何を使つているかをきいた結果は次のようであつた。すなわち全国的にみてもつとも多くの家庭で使われているものはマキと炭で、全対象者の60%がマキを使い、52%が炭を使つている。ガス、石油はずつと少なく20%前後、電気が12%、プロパンガス7%、その他練炭、石炭などはいずれも5%以下となつている。

第 30 表　家庭用品

		総数 実数	総数 %	ミシン	ラジオ	電気洗濯機	電気釜	電気暖房器具	テレビ	冷蔵庫	電気掃除機	無回答
計		1,863	100%	62%	93%	24%	17%	28%	16%	12%	2%	5%
地域別	区部	298	100	72	97	44	23	40	40	28	6	1
	市部	1,037	100	64	93	24	18	29	15	12	2	5
	郡部	528	100	52	91	11	10	19	6	4	—	7
年令別	～29才	366	100	71	92	24	21	29	16	8	2	4
	30才台	633	100	58	94	28	19	31	18	15	2	4
	40才台	503	100	60	92	22	14	25	15	14	2	6
	50才台	267	100	66	96	21	13	25	16	11	2	2
	60才以上	94	100	51	88	9	9	25	9	9	—	10
収入別	0～20万円	507	100	38	83	7	6	10	5	3	1	13
	20～30万円	449	100	62	97	13	14	24	10	8	0	2
	30～50万円	484	100	74	98	31	23	38	19	14	2	1
	50万円以上	314	100	82	98	51	27	45	37	31	5	1
	不明	109	100	65	91	32	17	30	24	15	4	3
職業別	自営 農林漁業	111	100	63	97	10	6	18	3	2	—	1
	自営 非農林漁業	150	100	70	95	37	24	44	30	31	2	2
	雇用	147	100	57	86	18	27	32	11	5	—	11
	家族従業 農林漁業	333	100	47	90	5	3	8	3	1	0	8
	家族従業 非農林漁業	139	100	71	96	44	24	37	28	25	4	1
	内職	237	100	58	90	18	19	22	8	6	—	8
	無職 計	741	100	67	95	30	19	34	23	16	3	3
	無職 区部	182	100	76	98	51	24	45	44	32	8	—
	無職 市部	447	100	67	94	26	17	32	17	11	2	4
	無職 郡部	112	100	54	95	13	17	25	13	10	—	5
	不明	5	100	80	100	20	—	40	—	40	—	—

地域別にみると、各地域の燃料使用状況には大きな相違がみられる。すなわち区部ではガスを使う家庭が大部分で71%、炭は40%、その他はいずれも20%以下であるが、マキを使う家庭がやはり19%ある。市部ではマキが61%でもつとも多く、石油と炭が29%、ガスと電気はそれぞれ15%である。郡部ではマキが82%で圧倒的に多く、あとはいずれも10%前後で、ガスは皆無に近い。

第 31 表　燃　料

		総数 実数	総数 %	ガス	電気	石油	炭	マキ	プロパンガス	練炭	石炭	ワラ	木屑
計		1,863	100%	20%	12%	22%	52%	60%	7%	5%	3%	1%	3%
地域別	区部	298	100	71	12	16	40	19	2	7	—	—	0
	市部	1,037	100	15	14	29	29	61	9	6	2	1	3
	郡部	528	100	0	8	13	13	82	7	2	4	3	13

（注）二種類以上をあげたものがあるため各項目の計は100%をこえる。

13. 外出回数

問　あなたは月に何回位外出しますか（近所への買物ていどのことは除きます）？　用件はどういうことが多いですか？

第 32 表　外出回数

		総数 実数	総数 %	0回	1～2回	3～5回	6～10回	11回～	ほとんど毎日
計		1,863	100%	21%	41%	26%	8%	3%	1%
地域別	区部	298	100	19	39	27	9	7	—
	市部	1,037	100	21	42	26	7	3	1
	郡部	528	100	23	40	25	9	3	0
職業別	自営 農林漁業	111	100	23	33	36	7	—	—
	自営 非農林漁業	150	100	24	45	20	5	5	1
	雇用	147	100	22	46	25	3	3	1
	家族従業 農林漁業	333	100	24	46	19	9	2	—
	家族従業 非農林漁業	139	100	20	44	25	4	4	2
	内職	237	100	17	40	29	10	4	—
	無職 計	741	100	21	38	28	9	4	1
	無職 区部	182	100	25	34	26	10	4	—
	無職 市部	447	100	19	40	29	9	3	1
	無職 郡部	112	100	20	36	27	11	5	2
	不明	5	100	40	40	—	20	—	—
年令別	～29才	366	100	13	46	27	9	4	1
	30才台	633	100	20	41	28	8	3	0
	40才台	503	100	23	39	26	8	4	1
	50才台	267	100	30	38	25	7	3	1
	60才以上	94	100	37	45	10	2	—	—

対象者全体についてみると、月1、2回外出するというものがもつとも多く41%、次いで3～5回が26%となつており、1回も外出しないものが21%、6回以上が12%となつている。地域別にみても、職業別にみてもほとんど差がなく、ただ年令別にみると、高年令ほど1回も外出しないものが多くなつている。

外出の用件の主なものをみると、"買物"が一番多く、次いで"映画""会合""社交"の順となつている。地域別にみると、三地域ともやはり"買物"が一番多いが、市部と区部では"映画"が第二位であるのに対して、郡部では"会合"が第二位に上つている点が異つている。また1カ月の外出回数1回～5回のものの主な用件は、買物、映画、会合の順であるが、6回以上になると、"買物"について"会合"が多くなつていることが注目される。

第 33 表　外出の用件

		総数 実数	総数 %	社交	買物	会合	映画	その他
計		1,863	100%	17%	43%	21%	28%	10%
地域別	区部	298	100	24	44	22	32	12
	市部	1,037	100	14	39	16	30	10
	郡部	528	100	18	48	31	22	10
外出回数別	1～2回	762	100	18	47	19	32	9
	3～5〃	482	100	22	62	32	42	13
	6～10〃	149	100	34	70	48	39	22
	11回～	60	100	28	47	30	28	48
	毎日	11	100	27	55	18	18	46

(注)　〝その他〟の主な内容は、〝取引関係（商売）〟、〝通院〟、〝神社参拝〟、〝講習〟である。

14.　予定を立てているか

問　あなたは時間の使い方について、一週間の予定とか、一日の予定を立てていますか？　その予定の中に自分の時間をとつていますか？

"予定を立てている"ものは少なく、全体の28%である。そして予定の中に自分の時間をとつているものは、予定を立てているものの約半分である。職業別にみると、雇用者は予定を立てるものが比較的多く(40%)、自分の時間を予定にくんでいるものも22%あるが、他の有職者や無職者の間では差はない。年令別では40才台までのものは30%前後が予定を立てているのに対して、50才以上では予定を立てるものは20%以下である。また現在自由時間をもつものはもたないものにくらべて予定を立てているものが多い。しかし自由時間をもつものの中では、自由時間が長くなるほど予定を立てるものが少なくなる傾向がみられる。(1時間未満38%、1～3時間33%、3～5時間28%、5時間以上23%)

第 34 表　予定を立てているか

		総数 実数	総数 %	立てていない	立てている	自分の時間をとつている	自分の時間をとつていない	不明
計		1,863	100%	72%	28%	14%	13%	2%
年令別	～29才	366	100	69	31	16	13	2
	30才台	683	100	68	32	14	16	3
	40才台	503	100	71	29	14	13	1
	50才台	267	100	81	20	11	8	2
	60才以上	94	100	90	10	3	5	1
自由時間数別	なし	444	100	77	23	5	16	2
	1時間未満	79	100	62	38	20	13	5
	1〃以上	655	100	67	33	17	13	3
	3〃〃	424	100	72	28	15	12	1
	5〃〃	198	100	75	25	18	6	2
	9〃〃	38	100	87	13	11	3	—
	不明	25	100	80	20	8	12	—

15.　したいこと

問　あなたはもつとひまができたらしたいと思うことがありますか？　どんなことですか？

"したいと思うことがある"と答えたものは全体の約3分の2で、年令は若いほど"したいことがある"というものが多く、(20才台80%、40才台64%、60才以上40%)、また自由時間のあるものとないものとでは、あるものの方が"したいことあり"が多い。(自由時間あるもの70%、ないもの62%)。

どんなことがしたいかといえば、いろいろなことがあげられている中で、"和洋裁や編物"をしたいというものが目立つて多く(26%)、とくに若い年代はとこの答が多い。次いで比較的希望の多いのは"内職"の8%、"読書"の7%で、そのほかはいずれも5%以下で少ない。

第 35 表　したいこと

		総数 実数	総数 %	したいことなし	したいことあり	したいことの内訳 和洋裁(編物)	内職	読書	子供の教育	生花茶道	料理	休養	映画	新聞	他人交際	その他
計		1,863	100%	32%	68%	26%	8%	7%	4%	4%	3%	2%	2%	1%	1%	16%
年令	～29才	366	100	20	80	36	8	8	3	2	5	1	1	1	1	17
	30才台	683	100	27	73	29	7	7	7	5	3	2	2	2	2	16
	40才台	503	100	36	64	22	7	8	5	3	3	3	2	2	1	16
	50才台	267	100	43	57	17	11	3	1	3	0	4	2	1	1	16
	60才以上	94	100	60	40	10	2	4	1	1	2	3	—	—	—	15
有職無職別	有	1,419	100	30	70	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	無	444	100	39	62	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

16. 生活の張合い

問　あなたは毎日の生活に張合いがありますか？

全対象者の93%は多かれ少なかれ張合いのある毎日を送つていると答えている。このうち、"大いに張合のある"ものが61%、"少しは張合いのある"もの32%である。張合いのないものは7%にすぎない。これを自由時間のあるものとないものに分けてみると、職業をもつているものの場合は、どの職業のものも、自由時間のあるものは、ないものより"大いに張合いがある"というものが多い。しかし、無職のものについては、自由時間の有無と張合いの程度とはほとんど関係がみられない。年令別には、若い年代に"大いに張合いのある"ものが多く、高年令に少ない。年令が高くなると"張合いのない"ものが多くなり、60才以上では、"張合いのない"ものが約4分の1の26%である。

第36表　張合い

		総数 実数	総数 %	大いに張合あり	少しは張合あり	ほとんど張合なし	全く張合なし	その他無回答
計		1,868	100%	61%	32%	5%	2%	1%
職業有職	自由時間 有	776	100	66	29	4	1	1
	〃 無	346	100	55	36	7	1	1
職業無職	〃 有	643	100	59	33	6	2	—
	〃 無	98	100	56	26	8	5	5
年令別	～29才	366	100	64	32	3	1	0
	30才台	633	100	65	30	2	1	1
	40才台	503	100	63	29	6	1	1
	50才台	267	100	50	39	9	2	0
	60才以上	94	100	42	31	17	9	2

調査地点表

調査地点番号	調査地点名	調査対象者数	調査地点番号	調査地点名	調査対象者数
1	北海道旭川市	40	26	静岡県吉原市	40
2	〃 空知支庁幌向村	〃	27	愛知県名古屋市北区	〃
3	〃 十勝支庁忠類村	〃	28	〃 豊川市	〃
4	青森県上北郡天間林村	〃	29	三重県鈴市	〃
5	宮城県仙台市	〃	30	滋賀県栗太郡栗東町	〃
6	秋田県秋田市	〃	31	京都府舞鶴市	〃
7	山形県長井市	〃	32	大阪府大阪市東淀川区	〃
8	福島県安達郡大玉村	〃	33	〃 布施市	〃
9	茨城県東茨城郡茨城町	〃	34	兵庫県神戸市灘区	〃
10	栃木県佐野市	〃	35	〃 伊丹市	〃
11	群馬県富岡市	〃	36	奈良県天理市	〃
12	埼玉県習志市	〃	37	鳥取県米子市	〃
13	千葉県船橋市	〃	38	岡山県玉野市	〃
14	東京都千代田区	〃	39	広島県三原市	〃
15	〃 江東区	〃	40	山口県宇部市	〃
16	〃 世田谷区	〃	41	徳島県那賀郡平谷村	〃
17	〃 荒川区	〃	42	愛媛県八幡浜市	〃
18	〃 三鷹市	〃	43	高知県高岡郡高岡町	〃
19	神奈川県横浜市中区	〃	44	福岡県小倉市	〃
20	〃 足柄下郡真鶴町	〃	45	〃 三潴郡城島町	〃
21	新潟県三島郡片貝町	〃	46	長崎県佐世保市	〃
22	石川県金沢市	〃	47	熊本県八代市	〃
23	山梨県甲府市	〃	48	大分県日田市	〃
24	長野県諏訪郡富士見町	〃	49	宮崎県東臼杵郡八代村	〃
25	岐阜県養老郡養老町	〃	50	鹿児島県揖宿郡財部町	〃

付 録

階層別生活時間調査

目　次

Ⅰ　調査の概要 …… 35
Ⅱ　調査地域の概況と調査対象者の状態 …… 36
Ⅲ　各階層における主婦の生活時間 …… 41
1.　生活時間の分類方法 …… 41
2.　階層別生活時間構造比較の概略 …… 42
3.　生理的生活時間 …… 43
4.　収入生活時間 …… 45
5.　家事的生活時間 …… 46
6.　社会的文化的生活時間 …… 47
7.　まとめ …… 49

統計表目次

第1表　続　柄 …… 39
第2表　年　令 …… 39
第3表　学　歴 …… 39
第4表　家族数 …… 39
第5表　同居家族 …… 39
第6表　収　入 …… 40
第7表　家庭用品 …… 40
第8表　燃　料 …… 40
第9表　生活時間分類方法 …… 41
第10表　主婦の生活時間 …… 43
第11表　生理的生活時間 …… 44
第12表　起床時刻分布 …… 44
第13表　就床時刻分布 …… 45
第14表　収入生活時間 …… 46
第15表　家事的生活時間 …… 47
第16表　文化的社会的生活時間 …… 49

Ⅰ 調査の概要

1.　調査の目的及び調査地域

この調査は"主婦の自由時間に関する意識調査"の付帯調査として行つたものであつて、その目的は社会階層間における主婦の生活の型の相違を生活時間構造の面からみることにあつた。階層としては、サラリーマン世帯、工場労働者世帯、商家、農家及び漁家をとり上げ、事例的に次の5つの地域をえらんで調査地域とした。

東京都武蔵野市日本住宅公団武蔵野緑町団地（サラリーマン世帯）
川崎市昭和町　（工場労働者世帯）
京都市上京区今出川出町上ル（桝形町）（商家）
和歌山県那賀郡粉川町竜門　（農家）
岩手県下閉伊郡山田町（漁家）

2.　調査方法

各調査地域における該当の世帯の中から60名ずつの主婦を無作為にえらび出し調査の対象者とした。調査の方法は対象者を戸別に訪問して"主婦の自由時間に関する意識調査"の調査票によつて質問を行うとともに、生活時間調査票を配布し、向う二日間に亘る生活時間の記入を依頼した。回収の結果、不作票を除く有効票数は次のとおりであつた。

サラリーマン世帯	（東京）	42人	延 84日分
工場労働者世帯	（川崎）	59人	〃117日分
商家	（京都）	53人	〃104日分
農家	（和歌山）	53人	〃102日分
漁家	（岩手）	44人	〃 88日分

3.　調査期日

東京、川崎　昭和34年2月上旬
京都、和歌山　〃　中旬
岩手　〃　下旬

但し、生活時間の記入日は日曜を除く連続する2日間

Ⅱ　調査地域の概況と調査対象者の実態

5つの調査地域はそれぞれ各階層の一つの事例としてえらばれたものであることはさきにのべたが、ここでは各地域ごとに、その地域の概況と調査の結果把握された対象者の実態について概略的にのべておこう。なお第1表～第8表によつて項目別に各階層の比較を示したので参照されたい。

A　東京都日本住宅公団武蔵野緑町団地（サラリーマン世帯対象地域）

この団地は国電吉祥寺駅からバスで五分の地点にあり、約1,000世帯が居住している。昭和33年11月の竣工にかかり、四階建と五階建の鉄筋コンクリート建築のアパートである。公団住宅のうちではもつとも高級なものの一つといわれる。

調査の結果からみた調査対象者（42人）の実態は次のようである。

調査の対象となつた主婦はすべて世帯主の妻であり、長男の妻やその他の世帯員の妻は皆無である。年令は5地域中もつとも若く、20才台が50%、30才台が43%を占める。学歴は断然高く、旧制中・新制高校が67%、旧専・大学が26%もあつて、高小・新制中以下は7%にすぎず、全国区部の主婦の学歴とくらべるとはるかに高い。家族数の平均は3.1人で5地域中もつとも少ない。71%が子供をもつており、夫と子供以外の家族員（注1）と同居するものは少ない。調査対象者のほとんどが無職であるが、内職をするものが5%（3人）ある。世帯の収入は年収30万円から70万円までの世帯が80%を占め、70万円以上が15%、30万円以下が5%である。電気器具等の使用状況についてみると調査したどの品目についても使用する世帯の割合は非常に高い。たとえば電気洗濯機と電気暖房器具は7～8割が使用しており、電気釜とテレビは約半数の家にある。電気掃除機も17%の家庭が使用している。炊事用燃料としては全世帯がガスを使用し、そのうち、12%が電気を併用している。

（注1）「主婦の自由時間に関する意識調査」による全国数字との比較である。以下同じ。

（注2）この団地の居住世帯の中にはいわゆる共稼ぎが可成り多く、抽出した60名の中にも勤務をもつ主婦が6名含まれていた。これらの人々についても調査は同様に行つたのであるが、生活時間構造において勤務をもつものは家庭にある主婦とは全く異なるため、これらの調査票は別に取扱うこととして今回の集計からは除外した。

B　川崎市昭和町（工場労働者世帯対象地域）

付近に幾多の大工場を擁するこの地域一帯には労働者のための社宅が多い。調査を行つたのは五つの事業場（主として金属関係）に所属する社宅の主婦たちであつた。

調査の結果からこれらの主婦（59名）の実態についてみると、続柄は98%が世帯主の妻であり、年令は30才台と40才台がそれぞれ4割余を占めている。学歴は高等小学校が7割で、旧制中・新制高校以上のものは岩手山田町の漁家とともに5地域中もつとも少ない。夫は殆どが現場労働者であり、本人は内職をもつものが30%あつて、内職の種類はあみもの、和裁等である。ほかに一定の時間だけ会社の臨時雇として

で働きに出るというものが少数ある。家族数は平均4.9人で子供をもつものがほとんどであるが、夫の父母や兄弟姉妹と同居するものは少ない。世帯収入は年収30万円から50万円のものが半数近くを占め、20万円～30万円が約3割、20万円以下のものはなく、50万円～100万円の世帯が2割ある。この5地域の中では、京都（商家）、東京（サラリーマン世帯）についで収入が高い。電気器具等の使用状況も5地域中三番目であるが、東京、京都との格差は大きく、電気洗濯機は25%、テレビは20%、電気暖房器具、電気釜、冷蔵庫は15%以下で、大体全国平均並である。炊事用燃料は石油を使うものが約8割でもつとも多く、炭と練炭を約半数の世帯が使い、3分の1の世帯がマキを使つている。

C　京都市樹形町（商家対象地域）

この地域一帯は市場を中心として庶民的な小売商店が密集している。食料品、衣料品など日常生活用品を取扱う店が主である。調査の対象となつた主婦（53名）は次のような人々であつた。

世帯主の妻が94%で、6%が長男又はその他の世帯員の妻である。年令は60才以上は少ないが、50才台以下各年令層が20%～30%ずつ可成り平均的に分散している。学歴は東京（サラリーマン世帯）についで高く、旧制中・新制高校卒が70%をしめているが、旧専・大学は東京のように多くはない。家業にはほとんどが小売店で、少数の飲食店が含まれている。主婦本人は3人の自営を除くほかはすべて家族従業者である。家族数の平均は5.6人で、岩手山田町の漁家についで多く、9人以上の家族数の世帯も10%ある。家族構成をみると、夫の父母や兄弟姉妹と同居する主婦の割合がどの地域よりも高い。すなわち対象者の4割が夫の母と同居し、2割が夫の父と、3割が夫の兄弟姉妹と同居している。子供をもつものは9割である。世帯の収入は年収50万円から70万円の世帯がもつとも多く、30万円から50万円（注）がこれにつぎ、30万円以下は少なく、100万円以上のものが13%に上つている。不明が25%あるため、実際の分布はつかめないが、それにしてもどの地域にくらべても収入が極めて高いことはたしかであろう。また全国非農林漁業家族従業者の世帯収入とくらべてもはるかに高い。電気器具等の使用率は東京に匹敵して極めて高い。すなわち、電気洗濯機は約7割、電気暖房器具とテレビは約6割の世帯が使つている。炊事用の燃料は98%がガスを使用し、炭とマキを使う世帯がそれぞれ35%前後ある。3分の1の世帯が家事手伝を雇つている。

（注）商家の主婦の同居家族について全国的な実態をみるため"主婦の自由時間に関する意識調査"の対象者中から商工業の家族従業者をとり出して同居家族についての集計を行つてみたところ、その結果は夫の母との同居19%、父との同居9%、夫の兄弟姉妹との同居7%で、この地域よりはいずれもはるかに少なかつた。

D　和歌山県粉川町（農家対象地域）

調査地竜門は和歌山市から汽車で東へ約1時間、粉川駅からバスで10分の距離にあり、和の川にそつて、紀伊富士と呼ばれる竜門山の麓に細長く横たわるいくつかの部落である。総戸数621戸のうち農家が598戸、その80%が純農家である。平均耕作反数は5反であるが、米、麦、ビール麦のほか蜜柑、梨、柿、桃、ぶどう等を産し、経済的には可成りゆたかである。労働の種類は男女ともかわらず、しかも果樹栽培が多いため、四季を通じて可成り忙がしい。1、2、3月頃が比較的ひまな時期で、調査時はちょうどその時期にあたるが、この頃の仕事としては、果樹の手入れ、施肥等家外の仕事のほかに、梨の袋掛の作業等家

の中心の仕事がある。

調査の対象となつた主婦（58名）についてその実態をみると、世帯主の妻が74%、長男の妻が9%、その他が17%の世帯主である未亡人が含まれている。（抽出の関係上この地域だけ未亡人も含めた）年令は30才台と40才台が過半数をしめ、20才台と50才以上はそれぞれ20%以下である。学歴は高小・新中が36%でもつとも多いが、旧中・新制高も30%あつて、岩手の漁家や川崎の工場労働者世帯の主婦より学歴が高く、又全国調査の郡部の平均よりも可成り高くなつている。家族数の一世帯あたり平均は4.8人である。姑と同居する主婦は約3割、嫁と同居するもの1割、夫の父とは約2割が同居しており、京都（商家）をのぞくどの地域よりも家族構成は複雑である。世帯の年間収入は20万円から50万円までが5割余、20万円以下が3割をしめ、50万円～100万円が15%で、全国農林漁業家族従業者（主婦）の世帯収入と同程度である。電気器具等の使用状況については、電気暖房器具のある世帯が32%、電気洗濯機は23%で、何れも全国の郡部平均より可成り高いが、他の品目についてはテレビ6%、電気釜8%と郡部平均並である。燃料はマキがほとんどの世帯で使われており、そのほかに炭を使う世帯が5割、その他の燃料はほとんど使われていない。

B　岩手県山田町（漁家対象地域）

山田町は太平洋岸山田湾に面した漁村で、全世帯の約8割に当る300世帯が漁業に従事している。のり、わかめ、かき等の養殖のほかいか一本釣が漁家の主な収入源となつている。耕地はほとんどなく、従つて農業を兼業する世帯はない。婦人の労働は、春はわかめほしにはじまり、夏から初冬にかけてはいかの処理に忙しく、秋頃からはさんま漁船を迎えてさんま加工に雇われる。さんま加工場が約80軒あり、婦人の7割までが働きに出るが、その労働は早朝から夜半に及ぶはげしいものである。しかし1日の賃金400円は漁家の収入源として重要なものとなつている。調査の行われた2月は漁家の婦人にとつてもつとも閑な時期に当つており、生活時間調査を行つた2日間に労働に従事したものは44人中31人であり、かきむきとのりほしが仕事の主なものであつた。

調査の結果から対象者の実態についてみると、続柄は世帯主の妻がほとんどで、長男の妻その他は4%にすぎない。年令は30才台と40才台が8割で、20才台の若いものが少ない。学歴は高小・新制中以下が8割を占める。家族数は5人～7人家族がもつとも多く、一世帯平均は6.3人で、5地域中もつとも多い。夫の母と同居するもの16%、嫁と同居するもの11%で、夫の父とは9%が同居している。世帯の年間収入は、不明が27%あつて、はつきりした分析がみられないが、収入額を答えたもののうちの7割余が年収20万円以下で50万円以上はほとんどない。家庭用品の使用状況については、他の四地域とくらべても、全国調査の郡部の平均とくらべても格段と低く、ラジオさえもたない世帯が3割近くあり、他の器具についてはミシンが25%の家にあるほかは電気器具などはいずれも皆無に近い。なお収入については、漁家の最大収入源であるいか漁に一昨年以来不漁がつづき、そのため漁家の経済は非常な痛手をこうむつている際であつた。

第1表　続柄

	総数 実数	総数 %	妻	長男の妻	その他
サラリーマン（東京）	42	100%	100%	—%	—%
工場労働者（神奈川）	59	100	98	—	2
商家（京都）	53	100	94	4	2
農家（和歌山）	53	100	74	9	17
漁家（岩手）	44	100	95	2	2

第2表　年令

	総数 実数	総数 %	～29才	30才台	40才台	50才台	60才～
サラリーマン（東京）	42	100%	50%	43%	7%	—%	—%
工場労働者（神奈川）	59	100	15	41	42	2	
商家（京都）	53	100	25	30	23	19	4
農家（和歌山）	53	100	19	30	34	11	6
漁家（岩手）	44	100	5	36	43	11	5

第3表　学歴

	総数 実数	総数 %	小学校以下	高小・新中	旧中・新高	旧専・大学	その他
サラリーマン（東京）	42	100%	—%	7%	67%	26%	—%
工場労働者（神奈川）	59	100	15	68	15	2	—
商家（京都）	53	100	8	17	72	4	—
農家（和歌山）	53	100	25	36	30	2	8
漁家（岩手）	44	100	43	39	18	—	—

第4表　家族数

	総数 実数	総数 %	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人～	平均
サラリーマン（東京）	42	100%	26%	43%	24%	5%	2%	—%	—%	—%	—%	3.14人
工場労働者（神奈川）	59	100	3	10	32	29	14	5	3	2	2	4.86
商家（京都）	53	100	2	4	25	25	21	11	4	6	4	5.56
農家（和歌山）	53	100	8	13	26	17	19	11	6	—	—	4.80
漁家（岩手）	44	100	—	2	14	18	21	23	11	11	—	6.27

第5表　同居家族

	総数 実数	総数 %	本人の父	本人の母	夫の父	夫の母	夫の兄弟姉妹	子供	孫	嫁	その他
サラリーマン（東京）	42	100%	—%	2%	2%	—%	5%	71%	—%	—%	—%
工場労働者（神奈川）	59	100	—	3	2	5	2	97	—	—	3
商家（京都）	53	100	2	6	21	38	28	91	6	11	9
農家（和歌山）	53	100	6	9	17	28	4	91	9	11	8
漁家（岩手）	44	100	—	—	9	16	7	100	9	11	5

第 6 表 収 入

	総数 実数	総数 %	なし	不明	万円 ～10	万円 10～15	万円 15～20	万円 20～30	万円 30～50	万円 50～70	万円 70～100	万円 100～150	万円 150～
サラリーマン（東 京）	42	100%	—%	—%	—%	—%	—%	5%	45%	36%	10%	5%	—%
工場労働者（神奈川）	59	100	—	2	—	—	—	31	49	12	7	—	—
商 家（京 都）	53	100	—	25	—	—	2	4	19	34	4	11	2
農 家（和歌山）	53	100	—	8	2	4	17	28	26	9	6	—	—
漁 家（岩 手）	44	100	—	27	14	9	23	7	18	—	—	2	—

第 7 表 家庭用品

	総数 実数	総数 %	ミシン	ラジオ	電気洗濯機	電気釜	電気暖房器具	テレビ	冷蔵庫	電気掃除機	何もない
サラリーマン（東 京）	42	100%	88%	91%	79%	50%	67%	45%	29%	17%	—%
工場労働者（神奈川）	59	100	71	98	25	12	15	20	14	3	—
商 家（京 都）	53	100	93	100	68	26	57	57	55	15	—
農 家（和歌山）	53	100	72	100	23	8	32	6	—	—	—
漁 家（岩 手）	44	100	25	73	2	—	5	—	—	—	27

第 8 表 燃 料

	総数 実数	総数 %	ガス	電気	石油	炭	マキ	プロパンガス	練炭
サラリーマン（東 京）	42	100%	100%	12%	—%	7%	—%	—%	—%
工場労働者（神奈川）	59	100	3	5	78	54	34	10	49
商 家（京 都）	53	100	98	9	2	34	36	—	6
農 家（和歌山）	53	100	—	4	25	29	89	21	4
漁 家（岩 手）	44	100	—	—	—	50	98	5	5

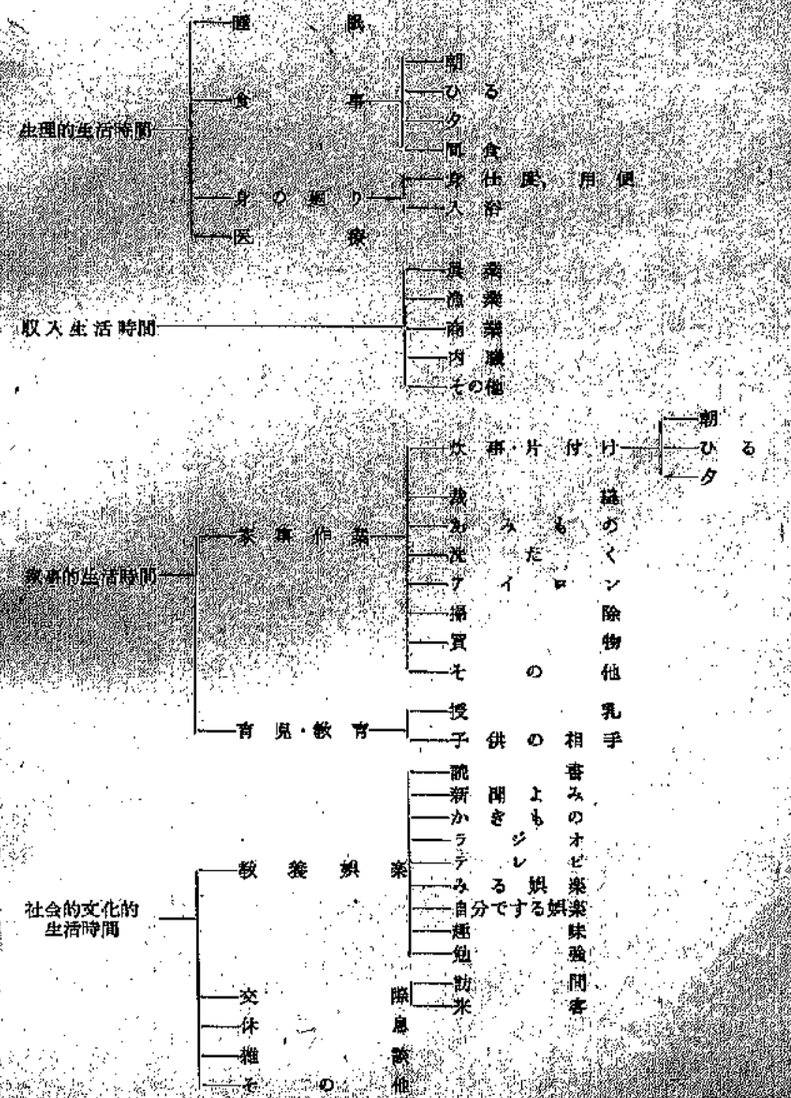
Ⅱ 各階層における主婦の生活時間

1. 生活時間の分類方法

はじめにこの調査の結果を集計する際に用いた生活時間の分類方法を次の一覧表によつて示しておこう。

これから述べる分析の順序としては、まずこの表の大分類項目の上で、各階層の主婦の生活時間構造の大まかな比較をみた後、各項目別にその内容をくわしくみていくこととする。

第 9 表 生活時間分類方法



2. 階層別生活時間構造比較の概略

主婦の1日を、生理的生活時間（睡眠、食事、身の廻り、医療の各時間）、収入生活時間（収入源となるあらゆる労働のための時間）、家事的生活時間（家事作業時間及び育児時間）、文化的社会的生活時間（教養娯楽、交際、休息、雑談及びその他の時間）の四つの要素時間に大きく分類して、各階層の比較を示したものが第10表である。

まず生理的生活時間は和歌山の農家が最も長く10時間31分、京都の商家と岩手の漁家がもつとも短く10時間、東京のサラリーマン世帯と川崎の工場労働者世帯の主婦はいずれもその中間で10時間15分と10時間19分となつている。主婦の1日（24時間）の中でしめる割合はいずれも42～44%で、四つの要素時間の中でもつとも大きな部分を占めている。しかもこのように階層間の時間のひらきが小さく、最高と最低の差がわずか30分に過ぎないことは、他の三つの要素時間のいずれにもみられない特徴である。

生理的生活時間はこのように階層間の差が少ないが他の三つの要素時間は何れも階層によつて可成り大幅に相違する。中でも差のもつとも大きいのは収入生活時間である。まずサラリーマン世帯の主婦の収入生活時間の平均は12分で、全生活時間の1%にすぎない。次は工場労働者世帯の42分で、これも他の三階層とは比較にならない短時間で、全生活時間の3%を占めるにすぎない。農家と漁家はそれぞれ3時間13分と3時間20分でほとんど差がなく、全生活時間の13～14%をしめる。そして商家はもつとも収入生活時間が長く6時間16分にわたり、全生活時間の26%と生理的生活時間に次ぐ大きな部分を占める。

収入生活時間に次いで階層間の格差が大きく、且つ商家を除く他の四階層において生理的生活時間につぐ大きな生活部分となつているのは家事的生活時間である。すなわち、サラリーマン世帯と工場労働者世帯においてはそれぞれ9時間2分と9時間14分、すなわち全生活時間の38～39%が家事的生活に費されており、農家と漁家においてはそれぞれ6時間56分と7時間（29%～30%）が、商家においては5時間7分（21%）が家事的生活にあてられている。最高の工場労働者世帯及びサラリーマン世帯と最低の商家とのひらきは約4時間である。

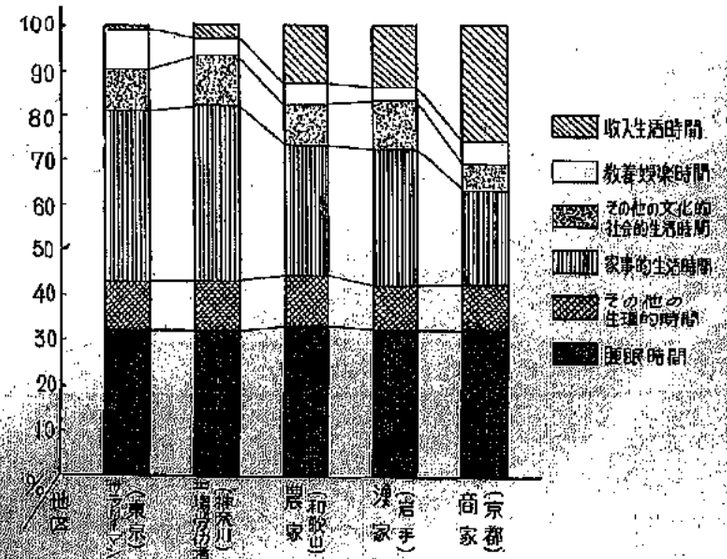
最後に文化的生活時間はどの階層においても家事生活時間のおよそ半分にあたる時間をしめており、それだけに階層間の格差もせばまる。サラリーマン世帯における文化的社会的生活時間はもつとも長く4時間31分で全生活時間の19%をしめ、工場労働者世帯では3時間45分（16%）とやや少ない。農家と漁家は3時間20分と3時間29分（14%と15%）でほとんど差がなく、何れも収入生活時間の長さにほぼ等しい。そして商家においてはもつとも少なく2時間29分となつており、最高のサラリーマン世帯との間に2時間の差がみられる。

次に上にみた各生活時間のくわしい内容をみよう。

第10表 主婦の生活時間

	サラリーマン（東京）	工場労働者（神奈川）	商家（京都）	農家（和歌山）	漁家（岩手）
計	24時間 100%	24時間 100%	24時間 100%	24時間 100%	24時間 100%
生理的生活時間	10時間15分 43%	10時間19分 43%	10時間00分 42%	10時間31分 44%	10時間00分 42%
収入生活時間	12分 1%	42分 3%	6時間16分 26%	3時間13分 13%	3時間20分 14%
家事的生活時間	9時間02分 38%	9時間14分 39%	5時間07分 21%	6時間56分 29%	7時間11分 30%
文化的社会的生活時間	4時間31分 19%	3時間45分 16%	2時間37分 11%	3時間20分 14%	3時間29分 15%

第1図 階層別主婦の生活時間



3. 生理的生活時間

生理的生活時間が各階層を通じて10時間から10時間半の間にあり、もつとも階層間の差の少ない生活部分であることはすでにみた通りであるが、内容別にみてもやはり階層の間の差は少ない。まず、生理的生活時間の大きな部分である睡眠時間は、農家の8時間がやや多いほかは、いずれも7時間40分前後で、生理的生活時間全体の74%～76%を占める。

睡眠時間はこのように階層間の差が少ないが、起床、就床時刻には可成のひらきがある。第12表と第13表は起床、就床時刻の分布と平均時刻を示したものであるが、起床時刻の階層別平均を時刻の早い順にみると、漁家が5時24分、工場労働者世帯が5時53分、農家が5時44分、サラリーマン世帯6時53分、商家

がもつともおそく7時1分となつている。漁家には4時半より早く起きるものが8%もみられ、工場労働者世帯の主婦も少数がそのような早い時刻に起きている。商家では5時半より早く起きるものはない。

就床時刻についてやはり早い順に各階層の平均時刻をみると、農家が9時37分、漁家が9時51分、工場労働者世帯が10時10分、サラリーマン世帯が11時14分、商家はもつともおそく11時25分である。サラリー

第 11 表　生理的生活時間

		サラリーマン	工場労働者	商家	農家	漁家
計		時間 分 (10. 15) 615	時間 分 (10. 19) 619	時間 分 (10. 00) 600	時間 分 (10. 31) 631	時間 分 (10. 00) 600
(%)		(100)	(100)	(100)	(100)	(100)
睡眠		(7.36) 456	(7.42) 462	(7.32) 452	(8.00) 480	(7.33) 453
(%)		(74)	(75)	(75)	(76)	(76)
食事	小計	(1.37) 97	(1.41) 101	(1.34) 94	(1.32) 92	(1.39) 99
(%)		(16)	(16)	(16)	(15)	(17)
	朝	26	33	26	27	33
	ひる	24	23	24	29	30
	夕	43	45	41	33	33
	間食	4	0	3	3	3
身の廻り	小計	58	49	54	50	46
(%)		(9)	(8)	(9)	(8)	(8)
	身仕度	37	29	28	32	24
	用便					
	入浴	21	20	26	18	26
	その他	0	0	0	0	0
医療		4	7	0	9	2
(%)		(1)	(1)	(—)	(1)	(0)

第 12 表　起床時刻別分布

	東京	神奈川	京都	和歌山	岩手
計	100%	100%	100%	100%	100%
4時前※	—	1	—	—	5
4.30 〃	—	1	—	—	3
5.00 〃	—	6	—	15	35
5.30 〃	1	24	—	31	19
6.00 〃	17	42	13	35	32
6.30 〃	18	21	19	12	3
7.00 〃	32	5	36	7	—
7.30 〃	19	—	17	—	2
8.00 〃	10	—	9	—	—
8.30 〃	—	1	2	—	—
9.00 〃	—	—	3	—	—
9.30 〃	1	—	1	—	—
10.00 〃	1	—	1	—	—
10時以後	—	—	—	—	—
不明	1	—	—	—	—
平均	6時53分	5時53分	7時01分	5時44分	5時24分

※4時を含む、以下同じ。

マン世帯と商家には12時以後に床に就くものが約10%ある。

次に食事時間についてみると、1日3回の食事時間の合計は各階層とも1時間40分前後でほとんど差がないが、朝、昼、晩のうちわけをみると、サラリーマン世帯、工場労働者世帯、及び商家では、朝と昼は比較的短く、夜が40分以上で他の二回より可成り長くなつているのに対し、農家と漁家では三回とも30分前後で夕食がとくに長いということはない。

身の廻り時間はどの階層も50分前後で大きな差はない。医療に費す時間は各階層とも10分以下である。

第 13 表　就床時刻別分布

	サラリーマン	工場労働者	商家	農家	漁家
計	100%	100%	100%	100%	100%
7時30分前※	—	—	—	—	—
8時00分 〃	—	—	—	6	3
8時30分 〃	—	1	—	5	3
9時00分 〃	1	3	—	13	10
9時30分 〃	4	17	3	27	18
10時00分 〃	4	26	1	16	30
10時30分 〃	16	26	9	26	17
11時00分 〃	27	20	20	8	13
11時30分 〃	11	6	30	—	3
12時00分 〃	26	1	30	1	2
12時以後	10	—	8	—	—
不明	2	—	—	—	—
平均	11時14分	10時10分	11時25分	9時37分	9時51分

※7時30分を含む、以下同じ。

4. 収入生活時間

各階層の主婦の収入生活時間をそれぞれの具体的内容についてみると、まずサラリーマン世帯の主婦は内職に12分を費しているが、これは実際には対象者42人中の3人が内職を行つた時間で、この3人は1人平均1日3時間強位の内職を行つている。

工場労働者世帯の主婦の収入生活の内容も内職であり、平均値は42分であるが、内職をもつものは59人中の18人で、この18人についての平均時間は1日2時間余である。

商家の主婦は家業に6時間12分を費し、ほかに内職に4分を費しており、他の階層の主婦にくらべてこの時期においてはもつとも収入生活時間が長い。仕事の内容は店番が主であるが、帳簿記入、売上管理、商品仕入れなど経営面の仕事にも多少たずさわつており、その時間は平均21分である。

農家の主婦の収入生活時間は3時間13分で、その内容は農耕及び果樹栽培関係の仕事に2時間32分、畜産、家禽のせわ、柴刈りなどに41分となつている。

漁家の主婦の収入生活時間は3時間20分で、農家とほぼ等しく、その大部分がかきむき、のりはりなど漁業関係の仕事に使われている。そのほかに、家畜、家禽のせわに平均4分が使われているが、実際には

の仕事を行つたものは3名である。

なお、さきにも述べたが、調査のこの時期（2月）は農家と漁家の主婦にとつて年間でもつとも家業のひまな時期であつた。

第 14 表　収入生活時間

	サラリーマン	工場労働者	商　家	農　家	漁　家
	分	分	時間 分　分	時間 分　分	時間 分　分
計	12	42	(6. 16)　376	(3. 13)　193	(3. 20)　200
農　業	—	—	—	152	—
漁　業	—	—	—	—	196
商　業	—	—	372	—	—
内　職	12	42	4	—	—
その他	—	—	—	41	4

5.　家事的生活時間

家事的生活時間は家事作業時間と育児時間から構成される。そのうち家事作業時間は何れの階層においても家事的生活時間全体の80%～90%を占めており，育児時間は10%～20%にすぎない。従つて階層間の家事的生活時間の相違は主として家事作業時間の長短にかかることになる。すなわち家事作業時間のもつとも長いのは工場労働者世帯の８時間10分，次いでサラリーマンの７時間14分，農家と漁家は６時間19分と６時間31分，商家は４時間28分でもつとも少ない。

家事作業のうちでもつとも多くの時間をしめるのは炊事と後片付けである。それに費す時間は工場労働者世帯がもつとも長く３時間12分，次いで漁家が３時間８分，サラリーマン世帯と農家は２時間40分前後，商家は２時間でやはりもつとも短い。どの階層でも夜の炊事がもつとも長く，ひるがもつとも短い。５階層のうち朝の炊事時間のもつとも長いのは漁家で75分，もつとも短いのはサラリーマン世帯と商家で40分前後である。昼の炊事はもつとも長いのは農家で46分，他はすべて25分程度である。夜の炊事はもつとも長いのが工場労働者世帯で１時間40分，もつとも短いのは商家と農家で１時間前後である。

炊事以外の家事作業に費す時間は工場労働者世帯が約５時間でもつとも長く，次いでサラリーマン世帯が４時間36分，農家と漁家は３時間半前後，商家は約２時間半でもつとも短い。さらにその内容をくわしくみると，サラリーマン世帯と工場労働者世帯の主婦は，裁縫，洗濯，掃除，買物に前者は約50分ずつ，後者は約１時間ずつを使つているのに対し，農家と漁家の主婦は裁縫に１時間半と大きく使う以外は，洗濯に30分程度，他の仕事にいずれも30分以下である。また商家の主婦は掃除に44分を費すほかはどの仕事も30分以下である。

育児・教育時間はどの階層も家事作業時間にくらべるとずつと少ないが，もつとも長いのはサラリーマン世帯の１時間48分，次いで工場労働者世帯の１時間４分で，商家，農家及び漁家はいずれも40分程度である。育児時間の大部分は何れの階層でも子供の相手や子供の世話に費され，授乳時間はサラリーマンの14分以外は何れも５分に足りない。

第 15 表　家事的生活時間

		サラリーマン	工場労働者	商　家	農　家	漁　家
		時間 分　分	時間 分　分	時間 分　分	時間 分　分	時間 分　分
総計 (%)		(9. 02)　542 (100)	(9. 14)　554 (100)	(5. 07)　307 (100)	(6. 56)　416 (100)	(7. 11)　431 (100)
家事作業	計 (%)	(7. 14)　434 (80)	(8. 10)　490 (88)	(4. 28)　268 (87)	(6. 19)　379 (91)	(6. 31)　391 (91)
	炊事・片付け　小計 %	(2. 36)　158 (29)	(3. 12)　192 (35)	(2. 01)　121 (39)	(2. 43)　163 (39)	(3. 00)　186 (43)
	朝	44	67	30	51	75
	ひる	25	24	33	48	24
	夕	87	101	57	63	85
	その他	2	0	2	3	2
	小計 (%)	(4. 36)　276 (51)	(4. 58)　298 (54)	(2. 27)　147 (48)	(3. 36)　216 (52)	(3. 35)　205 (48)
	裁縫	48	59	25	91	92
	あみもの	20	23	8	16	5
	洗濯	49	66	26	36	37
	アイロン	12	9	1	0	0
	掃除	55	56	44	27	14
	買物	50	57	22	16	16
	その他	42	28	21	30	32
育児教育	小計 (%)	(1. 48)　108 (20)	(1. 04)　64 (12)	39 (13)	37 (9)	40 (9)
	授乳	14	4	2	2	2
	子供の相手	89	60	37	35	30
	その他	5	0	0	0	8

6.　文化的社会的生活時間

文化的社会的生活時間はサラリーマン世帯が４時間半でもつとも長く，工場労働者世帯，農家，漁家がいずれも３時間台，商家が２時間半でもつとも短いことはすでにみたのであるが，内容的により詳しくみると第16表のとおりである。

まず各項目中もつとも文化性の高い教養娯楽時間についてみると，サラリーマン世帯の主婦は文化的社会的生活時間全体の49%にあたる２時間13分を教養娯楽に費しており，他の階層にくらべると著るしく長い。次に商家は１時間10分を，農家は１時間３分を，工場労働者世帯の主婦は54分を教養娯楽に費しており，その絶対値は余り変らないが，全文化的社会生活的時間に対してしめる割合をみると，工場労働者世帯では24%で最低，農家は32%とやや高く，商家では45%と文化的生活時間全体の半分近くが教養娯楽にあてられている。一方漁家の教養娯楽時間はもつとも少なく40分にすぎず，文化的生活時間全体に対する割合も19%とまた少ない。

サラリーマン世帯の主婦の教養娯楽時間はこのように他を引離して長いが，その内容をみると，読書，

新聞よみにその時間の半分（73分）が使われている。他の階層の主婦がこのことに費す時間がいずれも20分台であるのにくらべると、サラリーマン世帯の主婦が本や新聞を読む時間は格別長いということができる。

ラジオに費す時間は農家24分、漁家11分のほかは各階層とも10分以下である。またテレビは商家の25分（注）がもつとも長く、サラリーマン世帯19分、工場労働者世帯13分、農家５分、漁家０である。

（注）これはラジオをきくことがその時間の主な生活内容であつた時間である。そのほかに、何か他のことをしながらラジオをきいた時間について記入を求め集計したところ、サラリーマン世帯では３時間44分、工場労働者世帯４時間１分、商家１時間55分、農家２時間15分、漁家１時間９分という結果がみられる。またテレビについての同様な集計結果はサラリーマン世帯54分、工場労働者世帯11分、商家47分、農家３分、漁家０であつた。）

教養娯楽の内容としては読書、新聞、ラジオ、テレビのほかにサラリーマン世帯以外の階層では、みる娯楽（主として映画）に最高８分が使われているだけで他にはほとんどみるべきものがないが、サラリーマン世帯では趣味や勉強にも僅かながら時間が使われており、この階層の主婦は教養娯楽のために多くの時間をあてているばかりでなく、内容的にももつとも巾のひろい文化的生活を営んでいることがうかがえる。

次に交際時間についてみると、サラリーマン世帯、工場労働者世帯及び商家ではいずれも30分程度を交際にあてているのに対して、農家と漁家ではその倍に近い１時間内外を費している。ことに漁家では文化的社会的生活時間の中のもつとも大きな部分（29%）が交際にあてられている。

休息の時間はサラリーマン世帯、工場労働者世帯及び漁家ではそれぞれ約50分、農家では35分、商家ではもつとも少なく18分である。雑談の時間は工場労働者世帯、農家及び漁家が約30分、サラリーマン世帯と商家は約20分である。

"その他"の項目には、調査票記入、集会、宗教、手紙書きなどの時間が含まれる。工場労働者世帯では"その他"の時間が55分でもつとも多いが、対象者の中に婦人会やP.T.Aなどの役員をしている人が多かつた関係で、集会の時間が相当これに含まれている。

（注）文化的社会的生活時間の大部分は前掲の全国調査においてとり扱つた意味の"自由時間"に相当するであろう。このほかに"自由時間"は家事的生活時間の中にも可成りに含まれていることは全国調査の結果にみられるところである。なおこの調査の対象者に対しても、自由時間を何時間位もつているか、その時間に何をしているかについて全国調査で行つたと同じ質問（P.14 P.16参照）を行つたが、結果は次表のとおりであつた。全国調査の結果と傾向はほぼ同じである。

自由時間の長さ

	総数 実数	総数 %	時間 0	時間 ～2	時間 ～4	時間 ～6	時間 ～8	時間 ～10	時間 10～	不明	平均
サラリーマン（東京）	42	100%	5%	29%	26%	14%	12%	5%	2%	7%	3時間20分
工場労働者（神奈川）	59	100	19	29	31	15	3	2	—	2	2 20
商家（京都）	53	100	21	45	26	8	—	—	—	—	1 40
農家（和歌山）	53	100	13	74	9	4	—	—	—	—	1 16
漁家（岩手）	44	100	25	52	21	2	—	—	—	—	1 15

自由時間の内容

	総数 実数	総数 %	読書	新聞	ラジオ	テレビ	趣味	休息	雑談	裁縫	編物	子供の相手
サラリーマン（東京）	40	100%	73%	18%	10%	20%	18%	10%	—%	35%	33%	5%
工場労働者（神奈川）	48	100	52	29	21	13	10	6	13	19	8	8
商家（京都）	42	100	43	26	24	38	2	7	7	19	14	7
農家（和歌山）	46	100	46	44	46	—	4	9	9	11	4	4
漁家（岩手）	33	100	15	15	15	—	—	12	46	30	—	18

第16表　文化的社会的生活時間

		サラリーマン	工場労働者	商家	農家	漁家
計（%）		時間 分 分 (4.31) 271 (100)	時間 分 分 (3.45) 225 (100)	時間 分 分 (2.37) 157 (100)	時間 分 分 (3.20) 200 (100)	時間 分 分 (3.39) 209 (100)
教養娯楽	小計（%）	(2.13) 133 (49)	54 (24)	(1.10) 70 (45)	(1.03) 63 (32)	40 (19)
	読書	43	7	11	8	6
	新聞よみ	30	16	18	20	14
	かきもの	3	—	—	1	5
	ラジオ	6	8	5	24	11
	テレビ	19	13	25	5	—
	みる娯楽	3	6	8	2	8
	自分でする娯楽	1	—	—	—	—
	趣味	6	0	1	3	—
	勉強	10	—	—	—	—
	その他	12	4	2	—	—
交際	小計（%）	32 (12)	34 (15)	30 (19)	52 (26)	61 (29)
	訪問	12	17	4	29	22
	来客	18	15	18	23	39
	その他	2	2	8	—	—
休息（%）		50 (19)	50 (22)	18 (12)	35 (18)	46 (22)
雑談（%）		18 (7)	32 (14)	21 (13)	30 (15)	31 (15)
その他（%）		38 (14)	55 (24)	19 (13)	20 (10)	29 (14)

7. まとめ

以上の分析の中から、５つの階層の主婦の生活時間の比較の上でとくに注目される点をとりまとめてみよう。

主婦の生活内容を生理的、家事的、文化的、各生活時間及び収入生活時間の４つの要素時間に大きく分けるとき、そのうちもつとも階層間の差の大きいのは収入生活時間である。すなわち商家の主婦は６時間

余さ、農、漁家の主婦は3時間余を家業に費しているのに対して、工場労働者世帯の主婦は42分を、サラリーマン世帯の主婦はわずかに12分を内職に費すにすぎない。

この収入生活に費される時間の相違がその他の生活時間に影響することになるが、その影響は主として家事的生活時間及び文化的社会的生活時間の上にあらわれ、睡眠時間を含む生理的生活時間への影響はほとんどみられない。すなわちどの階層でも全生活時間の42～44%にあたる10時間乃至10時間半が生理的生活に使われており、睡眠時間は農家の8時間のほかはどこも7時間30分乃至40分でほとんど変りがない。

一方家事的生活時間と文化的社会的生活時間は、収入生活時間のしわよせをうけて、階層間に顕著な差異を生じる。すなわち家事的生活時間はサラリーマン階層と工場労働者階層が9時間余でもつとも長く、農家と漁家は7時間前後と約2時間の差を生じ、収入生活時間のもつとも長い商家ではさらに2時間を減じた5時間が家事的生活にあてられている。

文化的社会的生活時間はサラリーマン階層が4時間半でやはりもつとも長く、工場労働者階層は3時間45分、農、漁家では3時間半前後と約1時間少なく、商家はさらに1時間少ない2時間半となつている。

ここでみられることは各階層とも家事的生活に費される時間の約半分に当る時間が文化的社会的生活に割きれていることで、要する収入生活時間のしわよせがこの二つの要素時間のいずれかに偏することなく、双方に対して均等に及んでいることが知られる。ただ工場労働者世帯の場合にのみ、文化的社会的生活の比重がやや低く、家事的生活時間の半分を満たしていない。

どの階層においても家事的生活時間の80～90%が炊事をはじめ裁縫、洗濯、買物などの家事作業に費されている。この家事作業時間と収入生活時間との合計をかりに主婦が1日に働く時間の全体とみるならば、各階層のそれは商家が10時間44分、漁家が9時間51分、農家が9時間32分、工場労働者世帯8時間52分、サラリーマン世帯7時間26分となり、やはり収入生活時間の長い階層において働く時間の全体もまた長いことがみられる。

各階層の文化的社会的生活時間は上記のように収入生活時間からの制約によつて長短を生じているが、一方その内容における階層間の差異をみると、ここには地域の文化性や主婦本人の教養程度の反映が顕著にみられる。すなわち、各項目中もつとも文化性の高い教養娯楽時間についてみると、サラリーマン世帯では文化的社会的生活時間全体の49%にあたる2時間余をこれに費しているのに対して、工場労働者世帯の主婦においては54分（文化的社会的生活時間全体の24%）と少なく、農家は63分（32%）でやや多いが、漁家は40分（19%）でもつとも少なく、むしろこの階層では交際時間（61分）の方が長い。一方商家においては文化的社会的生活時間は5地域中もつとも少ないにかかわらず、その45%の70分を教養娯楽にあてており、サラリーマン階層をのぞくどの階層よりもこの時間が長いことが注目される。

主婦の自由時間に関する意識調査
付　階層別生活時間調査

昭和34年10月20日 印刷
昭和34年11月1日 発行

東京都千代田区大手町1の7
発行者　労働省婦人少年局

東京都中央区銀座1の5
印刷者　信毎書籍印刷株式会社